

2003年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

繪畫設計義信圖

繪畫設計義信圖

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (地球環境問題)		春学期	2単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「どの世代もこの地球を自由にしてよいという権利はない。われわれは1代限りの借家人である。」</p> <p>これは1988年10月イギリス保守党大会におけるサッチャー元首相の演説である。このような認識があったにもかかわらず、地球環境は急速に悪化し、さまざまな問題が表面化している。環境破壊は、現時点でもさまざまな人権侵害を含んでいると同時に、次の世代の生存を脅かすという意味においてわれわれの子孫に対する人権侵害でもある。</p> <p>この講義では人権問題という位置づけでさまざまな地球環境問題を紹介する。内容的には巖が担当する他の講義（環境問題概論）と重なる部分が多いことをあらかじめ了解していただきたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>以下のテーマをとりあげる予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量消費社会の裏側 – ゴミ問題 – ・奪われし未来 – 忍び寄る人工化学物質 – ・加熱する地球 – 地球温暖化 – ・失われる大地 – 土壌荒廃 – 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回のレポートと期末試験により判定する (詳細は初回講義にて)</p>		<p>[参考書]</p> <p>遠山益 『人間環境学』 裳華房 2001</p>		
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (戦争と障害者)		秋学期	2単位	生瀬 克己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>20世紀は戦争の世紀であったといわれるが、わが国の歴史をみても、20世紀の前半は特に「戦争の時代」との様相を呈している。このような戦争の時代に、「傷痍軍人」とよばれた戦争がつくりだす障害者があらわれる。この「傷痍軍人」をキーワードにして、戦争の歴史をみていくと、何が見えてくるのか。それがこの講義のテーマである。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>戦争で障害者になるというのは、いったい、何を意味していたのか。それを歴史的にみていくと、そのようなことになるのか。それは人びとのなかに何を残したのか、また、何も残さなかったとすれば、それは何故なのか。そうしたことを考える講義にしたいと思う。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各講義ごとの各学生の受けとめ方を大切にしたい。 それゆえ、出席重視を前提とした評価となる。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要なときに適宜紹介します。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（先住民族と人権） （旧人権問題Ⅱ（人権の思想と歴史「世界」））	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	尾 本 恵 市
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>本学の建学の理念である「キリスト教精神にもとづく人格の陶冶」および「世界市民の育成」にとって、現代人が忘れかけているわれわれの生活の「原点」を認識することが必要である。文明の歴史は一万年を超えることはなく、それは人類の長い進化の歴史に比べれば一瞬にすぎない。約一万年前で、われわれの先祖はみな採集・狩猟民であった。その生活は、ヒトもまた自然の一部であることを認めるつづましものではあったが、平等で平和な社会が保たれていた。大航海時代(15-17世紀)にヨーロッパ人たちによってアメリカやオーストラリアが「発見」されたが、そこには採集・狩猟民である先住民の人たちが一万年以上も前から住んでいたのである。</p> <p>この授業では、このような先住民族として、日本のアイヌ、先住アメリカ人、先住オーストラリア人（アボリジニ）、およびフィリッピンのアエタを選び、その生活と植民者と出会ってからの苦難の歴史について学ぶ。この授業の目的は、われわれの行動や社会生活の原点である採集・狩猟生活の「生き証人」であるこれらの人々の現状を知ることによって、人権やヒューマンズムの見地から現代文明を相対化することである。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>まず、イントロダクションとして、区別、偏見、差別という概念について説明する。ついで、ビデオ等の映像記録を見ながら、アジア・アメリカ・太平洋地域の先住民族の生活と世界観、植民者による虐待の事実などを学ぶ。毎週、出席票に質問や感想を書いてもらい、次回にそれらに答える事によって、できるだけ「双方向的な授業」にしたい。先住民族は、次の順で扱うことにする。</p> <p>(1) アイヌ（日本）、(2) 先住アメリカ人（南北アメリカ）、(3) アボリジニ（オーストラリア）、(4) アエタ（フィリッピン）。</p> <p>また、本学の建学の理念である「キリスト教精神にもとづく人格の陶冶」および「世界市民の育成」にとって、この授業がいかなる関係をもつのかについても考えてもらう。さらに、われわれにとって「ヒューマンズムとは何か」を学生と共に考えたい。</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席点および期末試験の成績によって評価する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>富田虎男『アメリカ・インディアンの歴史』雄山閣（1996） 荻野茂他『アイヌ語が国会に響く』草思社（1997） 小山修三『オーストラリア・アボリジニの現在』世界思想社（2002） その他、授業の中で随時紹介する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>尾本恵市『アイヌ民族とアメリカ先住民族』などのプリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（キリスト教Ⅰ）	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	滝 澤 武 人
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>「建学の精神」である「キリスト教」の立場から「世界市民」に光をあてるのがこの講義の目標です。一人の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を学問的に明らかにします。イエスはいわゆる「被差別民衆」の中で生き抜き、人間の自由と愛のために最後まで戦い、その結果として殺された人間であると言えるでしょう。そのようなイエスの生き方は、「キリスト教」や「教会」という枠をはるかに超えた普遍性を獲得していると思います。</p> <p>イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、フランシスコ・ザビエル、マザー・テレサなどによって受け継がれてきました。そして現代においてもなお、特に社会福祉・医療・教育・人権・ボランティアなどの問題に関心を有する世界中の人々に、大きな感動と勇気と希望を与えつづけています。</p> <p>イエスを学問的に論ずるためには、「福音書」の研究成果を土台としなければなりません。どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような歴史的状況の中で、誰に対して何のために、どのようなニュアンスで語られた言葉なのかを慎重に判断することが要求されます。真面目な学生諸君の熱心で主体的な受講を期待しています。もちろん、「信仰」の有無などには全く関係がなく、誰でもが自由に受講することができます。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>滝澤武人著『人間イエス』の内容にそって講義します。</p> <p>序章 イエスをもとめて 1章 おいたち 2章 被差別民衆 3章 ヒーリング 4章 どんな男？ 5章 どう生きる？ 6章 教会は？ 7章 終末 8章 死 終章 復活</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>試験・レポート・出席（受講姿勢）などを総合的に評価します。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>田川建三『イエスという男』（三一書房） 荒井 献『イエスとその時代』（岩波新書）</p>			
<p>【教科書】</p> <p>新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） 滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）</p> <p>聖書のテキストを自分自身で「読む」ことが中心課題ですので、聖書を必ず毎時間持参して下さい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (世界市民の原像)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	山 川 偉 也
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>この講義は、「世界市民」概念形成の経緯とその歴史をたどることを通じて、学生諸君に生じた「世界市民」とは何であるかを学習し探究してもらうことを意図している。「世界市民」という言葉は、ギリシア語の「コスモポリテース」に由来している。この言葉を最初に使ったのは、シノペのディオゲネスという人物である。その伝統はやがてストアの四海同胞思想を培い、ヨーロッパのヒューマニズムの流れを形成する重要な要因となっていく。この講義では、こうした「世界市民」概念の起原と歴史について総論的展望を与え、「あるべき世界市民」について考えてもらう契機としたい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>資料を読むことと討論することとを交互に繰り返すことを通じて、学生の主体的学習と「世界市民」たることへの理解を深めていく。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業中に行なう小テストの結果と学期末試験の結果を総合的に判定して行なうものとする。</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書なし。資料はコピーして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (障害者問題入門)		春学期	2 単 位	生 瀬 克 己
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>「障害者」というのは、どのような人たちのことか。そんなことを理解するために、いろいろな「種類」や「程度」の障害者たちのことを、できるかぎり、具体的に考えていくことにしたい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>障害者というのは、ごくおおざっぱにいうと、身体障害、知的障害、精神障害の三にわけることができるが、現実には、もっと、もっと多様で、複雑な存在でもある。</p> <p>そこで、そうした複雑さをできるかぎり年頭におきつつ、いろいろなタイプの障害者の相違点と共通点を理解してもらえようようにしたい。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席点を重視することと、講義への誠実な参加態度を大切に評価したい。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>必要なときに適宜紹介します。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（家庭と人権：過去・現在・未来）		秋学期	2単位	佐藤 啓子
[講義概要・学習目標] 家族の過去の姿から未来への進化とあわせて、個人の過去（たとえば胎児の「人権」）から高齢者にいたるまでの、いわば足もとの人権問題を、家族を基点に取り上げる。身近な問題を人権問題として取り上げることのできる法的意識と法的思考を身につけることを目標とする。	[講義計画] 第1講では家制度について取り上げる。 第2講以降では、命が誕生する前から成長、婚姻、老年期にいたるまでを時系列的に取り上げる。			
[成績評価の方法] 出席とテストによる。	[参考文献] 平湯編・明石書店『子供の人権双書1 家庭の崩壊と子供たち』 福島著・岩波書店『結婚と家族』 その他は追って紹介する			
[教科書] デイリー六法（ポケット六法は不可）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（合衆国憲法と人権保障）		秋学期	2単位	小早川 義 則
[講義概要・学習目標] 基本的人権の保障は民主主義の根幹にかかわる重要な問題であるが、その具体的内容は必ずしも分明とはいえない。本講義は、世界における人権思想の流れを概観した後、ピューリタン思想に基づき建国された米国の憲法上の人権規定の発展過程を合衆国最高裁判例を中心に辿りつつ、日本での人権問題とのかわりを明らかにする。人権の先進国アメリカでの動きを概括的にせよ把握することは、それ自体有益であることはもちろん、キリスト教精神に育まれた「世界市民」の養成という本学の精神にも適うことと思われる。	[講義計画] 講義形式になるが、2年間の米国（ニューヨーク）留学の経験を生かして、例えば、2001年の同時テロ多発の目標となった世界貿易センター周辺の地理的状況の説明など、留学体験ならではの生の経験をおりまぜながら、無味乾燥な内容に陥らないよう努力したい。一方通行の講義を避け、学生諸君との相互のコミュニケーションを重視したいので、講義途中での積極的で活発な質問を歓迎する。			
[成績評価の方法] 平常点およびレポート等を総合して評価する。	[参考文献] 小早川義則『ニューヨーク日記』（成文堂、2003年8月刊予定）、 藤倉皓一郎ほか編『英米判例百選[第3版]』（別冊ジュリスト139号） （有斐閣、1996年）、 その他、適宜指示する。			
[教科書] 小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』（成文堂、2003年8月刊予定）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（日本人の世界観；歴史と現在）	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	片 倉 穰
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では、日本人の世界観を歴史的に振り返りながら、21世紀に世界の市民として日本人は、いかに生き、どのように行動していくべきか、を考えてみたい。</p> <p>もとより我々は、歴史的存在であり、歴史を踏まえて未来を生きていく。過去、日本人は、どのように世界を認識し、そのなかに自己を位置づけてきたのか。そこには、いかなる特徴や問題点があり、そこから、どのような教訓を得ることができるのだろうか。</p> <p>また歴史上、海を渡った日本人たちの思想と行動にも注目したい。彼らは世界でなにを発見し、世界をどう認識したのであろうか。限られた時間内という制約はあるが、具体的な文献史料等を参照しつつ、先人の言動に学び、21世紀を生きる市民としての方向性を見出す機会を提供したいと思う。</p> <p>なお、研究の進展と史料（資料）の収集状況により、講義計画を1部変更することがある。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>はじめに：この講義の趣旨</p> <p>(1) 古代日本人の世界観 (ア) 華夷思想と天皇制の世界観 (イ) 仏教的世界観：本朝・唐・天竺</p> <p>(2) 中世を生きた人々の世界観 (ア) 古代から中世へ (イ) 境界を越えて活動した日本人</p> <p>(3) 近世日本人の世界観 (ア) キリスト教文明との出会い</p> <p>(4) 近代日本人の世界観 (ア) 岩倉使節団が見た世界 (イ) 海を渡った日本人</p> <p>(5) 現代日本人の世界観 (ア) 世界のなかの日本 (イ) 日本に訪れた市民の時代 (ウ) 21世紀を生きる日本人</p> <p>おわりに：この講義のまとめと反省</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況と期末試験などにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時、講義中に紹介・解説する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>毎時間、プリントを配布して講義を進める。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (地域・人間・文化重視の経済)		秋学期	2単位	桂 昭政
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>我々の社会は現在、グローバル市場経済に席卷され、効率化、画一化が進行するとともに、地域経済は疲弊し、地域社会は崩壊の危機に瀕している。グローバル市場経済が進行すればこの傾向はいつそう進むであろう。グローバル市場経済にあっても経済社会が安定するには地域社会が生活の場として機能することが必要である。いかに優勝劣敗の競争社会が浸透しても生活の場としての地域社会が存在していれば経済社会は安泰をたもつことができるであろう。我々はこの講義を通して今の時代にあって経済社会を安定に導くために生活の場としての地域社会をどのように構築していけばよいか考えていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>地域社会が生活の場として安定した機能をはたすためには地域独自の経済循環をもつことが必要であろう。そのためには生産主体としてNPO(民間非営利団体)の存在が重要になってくるし、地域の独自性としての文化を育みそれを経済活動にとり入れることが必要である。また生活の場において安定を確保するためには教育、医療、福祉、芸術等の政府サービスの現物移転が不可欠である。以上のことから本講義では以下のようなテーマをメインとしてとりあげて進めていく。(イ)NPO、(ロ)地方政府の役割、(ハ)地域固有の文化にねざす経済社会を構想している学説の紹介。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート(月一回程度)による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて随時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 世界の公共図書館 Public Libraries in the World		春学期	2 単位	志保田務
<p>[講義概要・学習目標] 市民生活と図書館の関わりについて、世界のいくつかの国、日本のいくつかの市町村を対象に考察する。市民生活における図書館の活用、図書館建設と市民運動などに広がる。「市民の図書館」を創ることの大切さを学ぶとともに、図書館の変遷、行き先などにも目を向ける。右蘭「講義計画」に示したように、全体を4期に分け、それぞれにまとめるよう展開する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1部 生活と図書館；概説 公共図書館の成立と発展 図書館の基本線：確認</p> <p>第2部 生活と図書館；外国編 英米 北欧</p> <p>第3部 生活と図書館；日本編 図書館の誕生 われらの図書館 買い物籠さげて図書館へ</p> <p>第4部 生活と図書館；行方 これからの図書館 電子化生活と図書館の変容 構造改革と図書館の基本線の変容 まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法] テスト65% 小レポート30% 出席5%</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本図書館協会編『中小都市における公共図書館の運営』日本図書館協会 1963 石井桃子『子どもの図書館』岩波書店 1965 日本図書館協会編『市民の図書館』日本図書館協会 1970 石井敦、前川恒雄『図書館の発見』日本放送協会 1970 辻由美『図書館で遊ぼう』講談社 1999 『まちの図書館でしらべる』編集委員会編 『まちの図書館でしらべる』柏書房 2002</p>			
<p>[教科書] 植松貞夫『建築から図書館をみる』勉誠出版 1999</p> <p>①. 生協にて一括購入し販売する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
世界市民（世界の資源・環境問題）		秋学期	2 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標] 今、世界がどのような資源・環境問題に直面しているかを紹介し、その背景にある社会・経済問題について考えていきたい。地球上の資源や環境は人類全体の共有財産である。20世紀における経済の飛躍的な発展とともに、それらをどのように利用していくか、そしてどのように分配していくかといったことが大きな問題となってきた。21世紀、22世紀と人類が繁栄を持続していくためには、今この問題を無視して通り過ぎるわけにはいかない。世界市民の一人として、世界が直面する資源・環境問題に対してどう行動するのか、そのことを考える一助にしてもらえればと思う。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展と人口増加 ・食料の生産と分配 ・水とエネルギー資源 ・森林の喪失と砂漠化 ・地球温暖化問題 ・開発途上国の環境問題 ・グローバル化と資源・環境問題 <p>といった内容をとりあげる予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法] 期末試験、および講義時間中に書いてもらう小論文（2～3回の予定）により評価する。詳細は初回に説明する。</p>	<p>[参考文献] 適宜指示する。</p>			
<p>[教科書] 指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（映画とグローバリゼーション）		秋学期	2単位	中村 秀之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、グローバリゼーションをめぐる様々な分野で盛んに議論が行われています。本講義は、この問題を映像文化の視点から、特に映画を中心に考察します。</p> <p>グローバリゼーションについてしばしば主張されるのは、それが実質的には冷戦終結後のアメリカ化の急速な進行を意味するという説です。その代表例として、あるいはその象徴として挙げられるのが現代のハリウッド映画というわけです。しかし、ハリウッド映画はすでにその発展の初期から「普遍性」への強い志向を持ち、その理念にもとづいて映画製作を行い、地球的規模でその市場を拡大してきたのです。本講義はハリウッド映画の そのような面の歴史を軸にしつつ、他方で国際映画祭というイベント、あるいは「日本映画」や「ジャパニメ」の海外での受容といった関連する諸問題も必要に応じて取り上げる予定です。このような事例を通して、文化のグローバリゼーション、そして、いわゆる「アメリカ」化の実は錯綜した様相について理解を深めることが本講義の目標です。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>およそ次のような項目を扱う予定ですが、詳細なスケジュールは初回授業時のガイダンスの際に伝えます。</p> <p>序論：映画と国民国家と（ポスト）コロニアリズム。 本論：ハリウッド映画の世界戦略と「アメリカ」化の歴史。初期の世界映画市場とその覇権交替。業界団体の活動と内容自主規制の意味。古典的ハリウッド映画とは何か。戦間期のヨーロッパとの関係。第二次世界大戦とハリウッド映画の変貌。映画産業の「衰退」と再構築。「ハリウッド」の国際的な再編。 関連事項：国際映画祭のポリティクス、世界のなかの「日本映画」と「ジャパニメ」、「難民」としての映画作家たち。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末の筆記試験で評価します。</p> <p>出席点はカウントしませんが、授業への参加が講義内容の理解にとって不可欠であるのはいまでもありません。特に本講義は映像資料を視聴する機会が多くなるので、その点は銘記しておいてください。</p>				適宜指示します。
<p>[教科書]</p> <p>未定。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（経済学の生成と時代的背景）		春学期	2単位	三邊 信夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学はアダム・スミスの「国富論」（1776年）に始まる。この講義では、スミスを中心に、それに先立つ重商主義と重農主義およびロバート・マルサスの「人口論」（1796年）とデヴィッド・リカードの「経済学原理」（1817年）の内容を概説し、資本主義の成立期における経済事情と資本主義精神を述べる</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 重商主義 2 重農主義 3 アダム・スミス（1723-1790） 4 ロバート・マルサス（1766-1834） 5 デヴィッド・リカード（1772-1823） <p>（時間が許せば、6 . カール・マルクス（1818-1883）の生涯）</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と試験</p>				[参考文献]
<p>[教科書]</p> <p>三邊信夫『経済学説史概論』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（世界市民の基礎知識）		秋学期	2単位	宮本 孝二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、本学の建学の理念でもある世界市民の養成に向けて、その基本となる世界市民の基礎知識を習得してもらうことを目的としている。世界市民とは現在のところは理想にとどまっているが、これこそ現代世界が目標とすべきものであり、現代に生きる人々が世界市民となるべく自己形成し役割遂行することが期待される。そのための基礎知識として、この講義では、まず目標となる世界市民の理念ないし理想を、その歴史的形成過程をたどりつつ示し、次いでその理想の実現を妨げている現代世界の主要問題の現状、原因、対策を可能な限りわかりやすく示したい。このように言わば世界事情を解説する中で、市民権すなわち人権や、これも本学建学の理念の基礎にあるキリスト教や、現代世界での大学生の役割などについても理解を深めていただけるであろう。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総論：市民とは誰のことか。 2 貧困、不平等、飢餓と資本主義 3 産業化と環境破壊 4 国民国家、民族、民主主義 5 戦争、紛争、テロリズム 6 宗教対立と原理主義 7 グローバル犯罪 8 人身売買と児童労働 9 移民、難民、人口移動 10 比較文化と異文化理解 11 日本社会・日本文化の特殊性 12 まとめと補足 <p>以上の内容を順次講義する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>秋学期期末試験の結果によって評価する。ただし、随時関心のあるテーマについて自由提出レポートを作成した場合は、それも加点方式で評価したい。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じてその都度指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない（板書講義）。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（英語と国際コミュニケーション） English Language and International Communication		秋学期	2単位	遠山 淳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>世界市民となるための条件を強いて言うならば、それにふさわしい能力が情報、行動、言語運用のそれぞれの分野について求められる。 当然のことながら、正しい情報（知識）を持っていないと、どんなに行動力や言語運用能力に優れていても、これだけでは役には立たない。目的と手段とは同じではない。世界市民としての知識があってはじめて行動や言語活動に意味が加わる。 この講義では「国際語としての英語」に焦点を当て、英語世界の現状、日本人が英語を学習する意味、英語使用の倫理、英語使用と文化シフト、等について考察し、地球文化と世界のコミュニケーションを考える。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション・エッセンス 2. 目標としての英語 3. 分化する英語 4. 母語としての英語／非母語としての英語 5. 国際英語と文化 6. 英語世界とネットワーク世界 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験／レポートで評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文 学（日本Ⅰ）（旧日本近代文学）		秋学期集中	4 単位	赤瀬 雅子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代は文学の不毛時代であるというのが、おおかたの日本人の認識であって、文学は映像芸術にその地位を譲ってしまったと考える人々も多い。 ヨーロッパでの認識はそれとは異なる。映像芸術も文学も、両者とも現代の生活に潤いを与えてくれるものとして、その存在価値は両者とも大きいというのがその認識である。 文学とは何かを基本に、その面白さを考察してゆきたい。この講義では広い視野を持って、古今東西の文学の面白さが理解できることを心がける。読書を楽しみ、それを漠然と見たテレビの旅の番組に結びつけ、かなり深い感動を得ることもできる。 文学の感動の再発見をひとつの目標としたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>文学史の講義が目的ではないが、文学史の基本的な知識を先ず学ぶ。これは多少忘れてしまっても結構である。 古今東西の作家に共通する特質を学び、文学の面白さに接してゆく。 原典を読むことは非常に大切なことなので、限られたものではあるが、外国文学の場合は翻訳によって原典の紹介を行う。日本のものは原典で紹介したい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末の試験を中心として評価する。講義の都度、試験に役立つことをいうので、出席率の向上に努め、真摯に学んでいただきたい。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>赤瀬雅子著 『永井荷風とフランス文化 放浪の風土記』 荒竹出版</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中村真一郎著 『読書の快楽』 新潮社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学（日本Ⅱ） （旧 日本古典文学）		春学期集中	4 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本の古典文学の代表とされる「平安文学」は、主に女性によって書かれたことで知られている。世界の文学の歴史からすると、これは極めて異例である。 では、なぜこの当時、女性が「文学」をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その事情を、当時の東アジアの国際情勢の中での日本の文化的な位置付けとからめて明らかにしていきたい。結論を先取りして言えば、当時の日本は中国との関係の中で、ジェンダーとしての〈女〉に自らを位置付けて、文化的なアイデンティティ形成を行ったのである。 また日本の文学史の中での平安文学の特権化は、第二次大戦後の日本社会と対応して、後から「創造された伝統」（ボズボーム）なのである。そこではアメリカとの関係の中で、自らを〈女〉のジェンダーに位置づけようとする政治的な力学が働いていた。そうした事情を歴史社会的に跡づけていきたい。 扱うテキストは、主に「日記文学」や「源氏物語」だが、必要に応じてその周辺のテキストにも言及していくつもりである。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化とジェンダー概念 2. 日本美術のジェンダー的特質 3. 戦後の日本文学観 4. 近世国学による文化概念の形成 5. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想 6. 仮名文の無根拠性と文字の物神化 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2度の試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ハルオ・シラネ、鈴木登美篇『創造された古典』（新曜社・1999）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学（西洋Ⅲ） （旧 西洋文学）		春学期集中	4単位	高 田 里 恵 子
[講義概要・学習目標] この講義ではドイツ近代文学の主要な作品を取りあげながら、文学史や文学理論の基本的な知識を獲得し、また作品の読み解きの方法を学ぶことを目的とする。多くの作品に触れ、読書の楽しみに目覚めてほしいと願っている。また、映像化されている作品も多いので、いくつか授業中に観る予定である。	[講義計画] 1. 天才美学の誕生 2. 1800年前後のドイツ文学 3. 世紀転換期のドイツ文学 4. ナチズムという過去との対決			
[成績評価の方法] 最後に期末試験を行なう。また状況によっては、理解度を見るために、レポートか小テストを課すこともありうる。試験やレポートでは、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。	[参考文献] 藤本淳雄他著『ドイツ文学史』（東京大学出版会）			
[教科書] 教科書は使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学（日本Ⅰ）（旧日本社会史）		秋学期集中	4単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] 歴史的な物の見方や考え方の習得をめざすことになる。そこで、具体的な講義においては、それぞれの歴史的場面における「誰が」「何時」「どこで」「何を」「どのように」したか。その結果、時代や社会の何がかわったのかを理解してもらおう。	[講義計画] 具体的な講義の展開としては、日本の近代社会の成立過程、つまりは日本資本主義の形成過程を素材にして検討していくことになる。そして、この日本近代の形成過程の研究という一つの課題を前にして、いろいろな専門家によって、意見と理解が異なる理由と意味についても検討していくことにしたい。			
[成績評価の方法] 講義のテーマごとに小レポートを書いてもらうなどによって、受講学生の理解と参加を参考にしつつ評価することにしたい。	[参考文献] 必要ときに適宜紹介します。			
[教科書] 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学 (アジア I) (旧 比較文化論)		春学期集中	4 単位	深 見 純 生
〔講義概要・学習目標〕 海の道による東西交流の歴史をとりあげる。 地域的には東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場するまで、つまり15世紀までを扱う。この間のアジア間交易のシステムの形成と、様々な変貌をあとづけることになる。 海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことがらにも触れる。また視覚的な理解のため若干のビデオ資料も用いる。	〔講義計画〕 1. 海域アジア世界 — 島の熱帯、モンスーン、海圏 2. 漢とローマ — 海のシルクロードの成立するまで 3. モンスーン航海の確立 — 法顕の航海、東南アジア史における5世紀 4. マラッカ海峡交易帝国 — シュリーヴィジャヤ交易帝国のすがた 5. 広州の繁栄 — アラブ・ペルシア商人の活躍 6. 中国人海商の進出 7. マラッカ海峡=三仏斎のすがた (10~13世紀) — 海賊と国家 8. チョーラの世紀=南インド勢力のマラッカ海峡支配 (11世紀) 9. 「都会」 — ネットワーク構造の変化 (12~14世紀) 10. ムラカ王国=極集中の時代 — 15世紀の自由貿易港?			
〔成績評価の方法〕 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。	〔参考文献〕 辛島昇・大村次郷『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000 [桃図A292.09] 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989 [桃図A209] 藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982 [桃図A209] 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993 [桃図A225.9]			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学 (大日本帝国の興亡)		秋学期集中	4 単位	望 月 和 彦
〔講義概要・学習目標〕 本講は、わが国の20世紀前半の歩みをふり振り返り、新たな歴史認識を得ようとするものである。本講は、従来、わが国歴史学が立脚してきたマルクス主義唯物史観に拠らず、全く異なる歴史評価を行う。歴史を学ぶことは、単に過去の事物を取り上げて懐古趣味に耽ることではない。歴史を知ることが、現在を知ることであり、将来を予測する手がかりを得ることもある。このまま世の中が進んでいけばどのような結果になるのか、現在の私たちにはどのような選択肢があり、各選択肢からどのような結果が生まれると考えられるか、このような問題を複雑極まる人間社会の問題としてとらえようとするれば、その手がかりは過去の事例に求めるしかない。 本講の関心も単なる過去に対する回顧ではなく、現在社会の問題解決にある。歴史は繰り返すというが、20世紀前半のわが国の歴史を見れば、その観を益々強くせざるを得ない。そこにはバブル経済の発生とその崩壊、無原則な国際協調政策の弊害、グローバルスタンダードへの無思慮な追随、これらの経済・外交政策の失敗による社会の閉塞感、等々といった今日のわが国社会が直面する問題が、違った形で現れていることが分かる。従って、この時代に何が行われ、何が行われなかったかを考察することは、現在の問題をどう解決すればよいかを考える際に大変有益であろう。 さらに、20世紀前半のわが国の歴史を概観することで、現在のわが国が置かれた状況を歴史の流れの中で把握することができる。それは現在の私たちのできること、できないこと、すべきこと、すべきでないことをある意味で規定している。 本講を受講すれば、歴史とは単なる過去の出来事への回顧ではなく、まさに「過去に対する現在の政治である」ことが了解されよう。内容は前年度とほぼ同じである。合格率、より詳細な内容、プリントの内容については以下のホームページをご覧ください。 http://www.cg-s.bias.ne.jp/mochan/index.htm	〔講義計画〕 導入 歴史の見方・考え方 1. 日露戦争 帝国主義国家への変貌 2. 中国の動乱と第一次世界大戦 対華21か条 排日法—日米対立への道 3. ロシア革命とシベリア出兵 日本外交の迷走 アメリカの意図 4. 大正バブルの生成と崩壊 第二次産業革命 大衆消費時代の到来 5. 大正時代の政治 ワシントン体制の成立 6. 昭和金融恐慌と金解禁政策 大正バブル崩壊の結末 7. 高橋財政の登場とニューディール 8. テロとクーデターの時代 統帥権干犯と軍部の抬頭 民主主義の自壊 9. 大陸政策と満洲事変 ワシントン体制の崩壊プロセス 10. 日華事変と国家総動員体制 1940年体制の成立 アメリカの対日政策 11. 日本の安全保障政策 防共から三国同盟へ ノモンハン事件 12. 第二次大戦の勃発からパールハーバーへ 日米交渉決裂の過程 13. ローズベルトの戦争政策 無条件降伏の思想 対日占領政策の形成 14. 戦争の推移と日本の終戦工作 近衛上奏文 15. ポツダム宣言受諾 大戦末期の国際関係 16. 占領改革(1) 憲法、東京裁判 17. 占領改革(2) 経済改革、公職追放 18. 占領期の政治と経済 19. 占領政策の転換 賠償政策の変化 経済安定化へ 20. 冷戦の勃発と早期講和の挫折 21. 共産中国の成立と朝鮮戦争 22. 講和條約と安保条約 日本の再独立と吉田ドクトリン			
〔成績評価の方法〕 期末試験の成績のみによって評価する。	〔参考文献〕 望月和彦 『論考経済開発論』 その他のものについてはプリント参照。			
〔教科書〕 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学（聖徳太子の人生）		春学期集中	4単位	梅 山 秀 幸
[講義概要・学習目標] その死後、伝説化され、実像のとらえにくい聖徳太子（574～622）の人生を、可能な限り客観的にとらえ、古代の日本の成立を、政治史、社会史、文化史、宗教史など、様々な側面から考えてみたい。552年、百済の聖明王は、一体の仏像と経論若干とを大和朝廷に送った。その後、古来の神々を信奉する氏族たちと新来の仏教を信奉する氏族たちとの間で激しい対立が起こる。その渦中に生れた聖徳太子は崇仏派の一翼を担って、日本で最初で最後ともいえる宗教戦争を先頭に立って戦う。推古天皇の摂政となった太子は、小墾田に都を造り、官位十二階を定め、さらには憲法十七条を發布する。おりしも中国では隋が起こり、周辺国家を威嚇する。高句麗には数度にわたって隋の大軍が押し寄せたが、そうした国際情勢の緊張関係の中で、太子は積極的な外交政策を行った。晩年、太子は仏教に沈潜し、『三経義疏』を著すが、それは日本人による最初の仏教研究であるのみか、「最初の書物」であることになる。その思想についても考えてみたい。	[講義計画] 1、仏教伝来について 2、仏教と国家——梁の武帝、百済の聖明王、そして新羅の真興王—— 3、「宗教戦争」、その残した傷跡 4、崇峻天皇の弑逆の評価——获生祖徠、本居宣長、そして慈円—— 5、小墾田宮への遷都 6、官位十二階の制定 7、憲法十七条の發布——儒・仏・道教の混交—— 8、小野妹子の隋への派遣 9、隋の煬帝の高句麗遠征とその失敗 10、『三経義疏』を読む 11、法隆寺について			
[成績評価の方法] 試験による	[参考文献] (1)『日本書紀』 (2)『三国史記』・『三国遺事』 (3)『梁書』・『隋書』 (4)梅原猛『聖徳太子』・上原和『斑鳩の白い道の上に』など			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学（歴史を動かすもの）		秋学期集中	4単位	前 田 治 郎
[講義概要・学習目標] 地層のように堆積する歴史の上に現代がある。済んでしまったこと（歴史）が我々現代人を惹きつけるのは、そこで活躍するのが我々と同じ人間であり、また、転換期に歴史が見せるダイナミズムの故ではないだろうか？ 本講義では、西洋史を素材にとりながら、歴史を動かす力は何かを考えてみたい。それは同時に、我々が歴史的に経験した様々な経済システム、国家や統治体制、宗教も含めた思想的発展、それぞれの時代に特有な人間像の変遷をも検討することになる。目標は、それぞれの人が持つ歴史観に、幾分かでも厚みを付け加えることである。	[講義計画] 前半には、ヨーロッパ史に現れた典型的な社会のあり方を概観します。 ギリシア・ローマの社会 封建社会 絶対主義の時代 資本主義社会 後半には、特定の観点を設定し、その通史的発展を検討します。 統治体制（国家） 経済システム（生産・分配・消費） 思想的発展と歴史的人間像			
[成績評価の方法] 授業中の小テストと秋学期末試験	[参考文献] その都度、指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学（言語学Ⅰ）（旧言語学）		春学期集中	4 単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
[講義概要・学習目標] 言語学はつぎの質問に答えようとする： 1) 言語知識とはどのようなものであるのか。 2) その知識はどのように獲得されるのか。 3) その知識はどのように使用されるのか。 いずれの場合も、研究対象は言語行動（発話）でも、言語の生産物（文学など）でもなく、こころの中に実在する知識である。言い換えれば、言語学は心理学の下位分野の一つにはかならない。 本授業では、自然科学の一つとしての言語学の研究対象や研究方法、立証的な問題を紹介し、特に上の（1、2）に対してどのような答えができそうなのか論じる。	[講義計画] I. 人間言語の位置付け： 1) 科学としての言語学：仮説・証拠・法則 2) 心理学の下位分野としての言語学：能力と運用 3) 言語における経験説と生得説 4) 人間言語と動物コミュニケーション：類似点と相違点 II. 人間言語の特徴： 1) 言語の音韻体系 2) 文の構造 III. 言語獲得			
[成績評価の方法] 小テストも、定期試験も行なう。小テストの大半を受けないなら、定期試験は、受けられない。	[参考文献] 授業中にプリントを配る。			
[教科書] S. Pinker 著（椋田直子訳） 『言語を生み出す本能』（上下）NHK Books 1997				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想（聖書研究） （旧 聖書研究）		春学期集中	4 単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標] キリスト教の正典である『聖書』、特に「旧約聖書」をできるだけ多く「読む」こと、それがこの講義の目標です。いわゆる『聖書』には、「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）の合計66巻の1000年間にわたるさまざまな時代に書かれたさまざまな文書が含まれています。それらは古代ユダヤ民族が残してくれた人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典と言えるでしょう。今日においてもなお、聖書は文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけています。もちろん、大学という場においては理性的・学問的な研究を土台としますので、「信仰」の有無などには全く関係なく、だれでもが受講できます。「世界市民」の教養として、ぜひ聖書に親しんでもらいたいと思います。	[講義計画] 前半に「創世記」「出エジプト記」、後半には主として「ヨブ記」「雅歌」「コヘレトの言葉」などの文学作品を読み進める予定です。真面目な学生諸君のねばり強い主体的な受講を期待しています。			
[成績評価の方法] 試験・レポート・出席（受講態度）などを総合的に評価します。	[参考文献] AERA Mook 『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社）			
[教科書] 新共同訳『聖書』（日本聖書協会、新約・旧約の両方を含んだもの） 聖書のテキストを自分自身で「読む」ことが中心課題ですので、授業には毎時間必ず持参して下さい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想（日本） （旧 日本思想史）		秋学期集中	4 単位	青 野 正 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本による植民地支配の時期において、特に農村社会での朝鮮の民族文化と同化政策（「日本人」化の政策）の関係や、民族文化に影響した終末思想の変容を学ぶ。</p> <p>次に、朝鮮総督府（日本の統治機関）が、民間信仰の巫俗（シャマニズム）や新王朝樹立（＝独立）を目指した民族宗教に対しておこなった政策を概説する。</p> <p>民族宗教団体の天道教と金剛大道が農村社会で築いた基盤と、それらに対する総督府の弾圧政策も解説する。</p> <p>難しいとの声をよく聞く。確かに難しいだろうが、留学や現地調査の体験談を交え、また具体的な資料も使いながら、できる限り平易に解説していく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>[講義概要・学習目標] で説明した流れに沿って、教科書の該当箇所を読み、それに解説を加えながら講義を進めていく。このように、教科書を読み進めていくやり方を取り、授業で扱う範囲は序章から終章までとなる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験により厳しく評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布し、画面で写真・資料等も見ると予定。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>青野正明『朝鮮農村の民族宗教』社会評論社、2001年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想（アジア） （旧 アジア思想史）		春学期集中	4 単位	小 林 信 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>儒教の大枠を分かり易く説明して、中国人の基本的な考え方を理解させる。次に、道教について簡単な解説して、中国人の考え方の別の面を明らかにする。さらに、中国人が仏教をどのように理解したかを説明して、インド文化と中国人文化の根本的な違いを理解させる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>まず儒教の基礎知識をしっかり身につけさせる。このために加地伸行の「儒教とは何か」読ませる。特に最初の部分は授業中に詳しく解説して上で、まとめの文章を何度か書かせて、理解の徹底化を図る。その後は取り上げる問題に応じてそのつど教材を用意して配布する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>① 授業中の質問と発言を特に評価する。 ② 課題ごとに小試験を行い、折にふれて授業内容の要約を提出させる。 ③ 学期の中間と学期末に試験を行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>加地伸行：『儒教とは何か』（中公新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想 (西洋) (旧社会思想) —ギリシアの哲学者たち—		春学期集中	4 単位	山 川 偉 也
【講義概要・学習目標】 この講義は、ギリシアの哲学者たちの言葉を通じて、物事を根本的に考えるとはどういうことであるか、また、何故そのことが大切であるのかを考えてもらうことを意図している。	【講義計画】 ギリシアの哲学者たちの言葉と対決することを通じて、21世紀以降に生きる「思想」のあり方と向う仕方での講義を行なう。			
【成績評価の方法】 授業中に行なう小テストと学期末試験の結果を総合的に判定して評価する。	【参考文献】			
【教科書】 『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学 (旧「経済学概論」)	0 1	春学期集中	4 単位	一ノ瀬 篤
【講義概要・学習目標】 以下の順序及び内容で講義を進める。 (1) 経済生活の基礎：生産、輸送、貯蓄・消費 (2) 経済体制：封建制度、資本主義制度、社会主義制度 (3) 資本主義経済 ①経済の成長と停滞 ②国民所得統計の見方 ③貯蓄と投資の関係：その重要性について ④輸出と輸入：国民経済と貿易 ⑤国際収支と為替相場 ⑥金融および金融政策の役割 ⑦財政の役割	【講義計画など】 ほぼ毎回、講義レジメを配布して、これに基づいて説明する。経済学は、誰にも近づきやすいようで、いざ理解しようとする、意外に困難な学問である。 何よりも分かりやすい講義を心がけたい。また、現実生活に役立つように、基本統計の見方の解説に時間を費やしたい。 大学時代に、専門分野に関する基礎知識を身につけよう。			
【成績評価の方法】 期末も含め、何度か小テストを行い、これによって評価する。	【参考文献】 講義の都度、指示する。			
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学 (旧経済学概論)	0 2	春学期集中	4 単位	野田知彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義の目的は、経済学の基本的な考え方を身につけることにある。具体的な題材としては、進学、就職、賃金、雇用、昇進、結婚、引退などの生活に関わる身近な問題をとりあげる。これらの問題を経済学的に分析すればどのようなことがわかるのか、ということを経済学の基礎的な考え方から説き起こしていく。また、最近、若年層の失業やいわゆる「パラサイト・シングル」などが問題になっているが、これらのトピックスについても取り上げたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「ライフサイクルの経済学」 橘木俊詔 筑摩新書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学 (旧経済学概論)	0 3	秋学期集中	4 単位	西川 憲二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日常生活の中で、私達は日々いろいろなことを選択し決定をしている。このとき「お金」が大きな決定要因になっていることが少なくない。このことは、私たちが「経済学」に取り込まれていることを意味している。言い換えると、経済学とは、我々の選択を経済的側面から解き明かしていく学問である。そればかりではなく、経済学は、企業や国家の選択や行動を説明する。そこで、経済学から、個人・企業・国家を眺めることによって、私たちの生活と社会がどのように機能しているのか、これからの日本経済はどうなっていくのか考えてみたいと思う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>日本経済と世界経済の現状 マクロ経済学 貿易と為替レート ミクロ経済学</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、学期末テスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>なし。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学	01	春学期集中	4 単位	稲 別 正 晴
[講義概要・学習目標]	<p>企業社会と呼ばれるように、私たちの生活はいろいろな形で企業と深く関わっています。私たちは毎日の生活において多くの財やサービスを購入して消費したり、利用しますが、それらは多様な企業から提供されます。また、ほとんどの人は所得を得るために学校を卒業すると〇〇会社という名の企業に就職して働きます。アルバイトも働いて収入を得るとい点では同じです。</p> <p>企業は市場経済の中で多くの資源を使い、それらを財やサービスの形に変換し人々に提供するという重要な経済活動を担っています。しかも、企業は情報化や国際化のもとで急速に変わる環境の中でつねに変革を迫られている存在です。したがって、企業経営やその活動を理解することは極めて重要です。</p> <p>経営学はこのような企業を対象として、そのあり様を明らかにし、またそのあるべき姿を展望する学問です。本講義では初めて「経営学」を学ぶ人々を対象として、私たちと企業との関わり合い、企業経営の仕組み、ヒト、モノ、カネ、情報などの資源がどのように運営されているかなどを取り上げます。</p>			
[成績評価の方法]	<p>試験の成績にレポートの評価を加味する。</p>			
[教科書]	<p>片岡信之・斉藤毅憲・高橋由明・渡辺 峻著『初めて学ぶ人のための経営学』 文真堂。</p>			
	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに 企業社会との関わり 環境変化と企業経営 株式会社 企業の目的 企業の組織 戦略の決定 マーケティング 生産 資金の調達と運用 人事管理 経営の国際化 			
	<p>[参考文献]</p> <p>教科書に記載、また必要に応じて指示します。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学	02	秋学期集中	4 単位	面 地 豊
[講義概要・学習目標]	<p>経営学という学問の性格と、その内容について概観する。このことにより、社会科学に属し、他の学問との差異と共通性を理解することを目指す。</p>			
[成績評価の方法]	<p>試験により評価する。</p>			
[教科書]	<p>拙著『西遊経営社会学の発展』 千倉書房</p>			
	<p>[講義計画]</p> <p>以下の順序で講義をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 経営学の誕生と資本主義経済の発展 アメリカ経営学の考へ方 ドイツ経営学の考へ方 日本の経営学論 補論：経営学におけるいくつかの議論；例として、企業の社会的責任論、等。 			
	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	01	秋学期集中	4単位	北川 紀男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会学は、「方法としての社会学(Soziologie als Methode)」とも云われ、他の社会科学や人文科学を学ぶ者にとっても、おおいに役立つ学問である。従って、法学部、経済学部、経営学部、文学部の諸君にも受講してもらいたい科目である。</p> <p>そこで先ず、社会学とはどういう学問であるのかを、その研究対象、社会的なものへの考え方・見方、その学問的特徴を概説することから始める。その上にあたって、家族、地域社会（農村と都市）、職場、組織（会社と組織）といった具体的な日常生活の場を取り上げて考察する。</p> <p>ついで、激しく変動する現代社会を捉える視点として社会変動の問題や、社会調査をはじめとする社会学の研究手法論について触れる。最後に、現代社会の抱える様々な社会問題について社会的な考察を試みる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義は、以下のテーマに従って進める予定である。</p> <p>①イントロダクション ②社会学とはどういう学問か ③社会学の研究対象 ④社会的なものへの見方・考え方 ⑤家族 ⑥農村社会 ⑦都市社会 ⑧会社・職場 ⑨集団・組織 ⑩労働 ⑪社会変動 ⑫社会調査 ⑬社会問題 ⑭まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。講義時間数の3分の1以上を欠席した者は、単位認定の対象外とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>別途指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>秋元律郎・石川晃弘・羽田新・袖井孝子著 『社会学入門（新版）』（有斐閣）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																							
社会学	02	秋学期集中	4単位	竹内 真澄																							
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会学は、外縁のはっきりしない、ゼリー状の生物のようなものである。だから、どう論じても、とめどなく広がり、けっきょくわからないで終わりがやすい。</p> <p>こういう曖昧さを回避できるかどうか自信はないが、昔アドルノとホルクハイマーが試みたような一種の「社会学事柄辞典」のようなものを構想し、人間と社会に関するドラマをいくつかの「お話」にしてみようかなと思っている。つまり、社会学が何であるかはわからなかったが、あれこれの「話」は印象に残った、というようなことをねらってみる。</p> <p>これさえインプットできれば、何年もたったあと、ひょっとして社会学というのはこういうことだったのではないかと受講生の誰かが思ったりするのではないかな。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>以下のようなドラマを考えている（順序はどうかかわからない）。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 戦争とファシズム</td> <td>10. ハワード・ジン</td> </tr> <tr> <td>2. 近代的自我とは何か （個人とは何か）</td> <td>11. サイドについて</td> </tr> <tr> <td>3. 競争の人生</td> <td>12. 経験の死滅？</td> </tr> <tr> <td>4. 北欧の人生</td> <td>13. チョムスキー</td> </tr> <tr> <td>5. アマルティア・センと 「合理的な愚か者」</td> <td>14. フェミニズム</td> </tr> <tr> <td>6. 価値と現実 （マックス・ウェーバー）</td> <td>15. 丸山眞男を超えて</td> </tr> <tr> <td>7. 「啓蒙の弁証法」としての明治維新 （近代化は野蛮化）</td> <td>16. 東アジアの共同体</td> </tr> <tr> <td>8. ハイチ・リベリア・日本 （戦後傀儡政権の野望）</td> <td>17. 木下順二の演劇から</td> </tr> <tr> <td>9. アメリカという傘</td> <td>18. デンマーク社会主義民衆党</td> </tr> <tr> <td></td> <td>19. 輪切りの理論と歴史の理論</td> </tr> <tr> <td></td> <td>20. 山田太一</td> </tr> <tr> <td></td> <td>21. イスラエルとパレスチナ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>22. 福祉国家を超えて</td> </tr> </table>	1. 戦争とファシズム	10. ハワード・ジン	2. 近代的自我とは何か （個人とは何か）	11. サイドについて	3. 競争の人生	12. 経験の死滅？	4. 北欧の人生	13. チョムスキー	5. アマルティア・センと 「合理的な愚か者」	14. フェミニズム	6. 価値と現実 （マックス・ウェーバー）	15. 丸山眞男を超えて	7. 「啓蒙の弁証法」としての明治維新 （近代化は野蛮化）	16. 東アジアの共同体	8. ハイチ・リベリア・日本 （戦後傀儡政権の野望）	17. 木下順二の演劇から	9. アメリカという傘	18. デンマーク社会主義民衆党		19. 輪切りの理論と歴史の理論		20. 山田太一		21. イスラエルとパレスチナ		22. 福祉国家を超えて
1. 戦争とファシズム	10. ハワード・ジン																										
2. 近代的自我とは何か （個人とは何か）	11. サイドについて																										
3. 競争の人生	12. 経験の死滅？																										
4. 北欧の人生	13. チョムスキー																										
5. アマルティア・センと 「合理的な愚か者」	14. フェミニズム																										
6. 価値と現実 （マックス・ウェーバー）	15. 丸山眞男を超えて																										
7. 「啓蒙の弁証法」としての明治維新 （近代化は野蛮化）	16. 東アジアの共同体																										
8. ハイチ・リベリア・日本 （戦後傀儡政権の野望）	17. 木下順二の演劇から																										
9. アメリカという傘	18. デンマーク社会主義民衆党																										
	19. 輪切りの理論と歴史の理論																										
	20. 山田太一																										
	21. イスラエルとパレスチナ																										
	22. 福祉国家を超えて																										
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験で評価するが、レポートを課すこともあるので、その場合は総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>																										
<p>[教科書]</p> <p>ハワード・ジン著 竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房</p>																											

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	0 1	通 期	4 単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>概要 市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活と法 2 憲法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治 3 民法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 総則（成年後見を含む） 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続 4 行政法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 行政行為及び行政手続 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 情報公開 5) 地方行政組織 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等を評価に加味する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>野崎和義『福祉のための法学』（ミネルヴァ書房 2002年） 『ポケット六法 平成15年版』（有斐閣）</p>	<p>[参考文献]</p> <p>樋口陽一『憲法と国家』岩波新書 星野英一『民法のすすめ』岩波新書 兼子仁著『新・地方自治法』岩波新書 兼子仁著『行政手続法』岩波新書 松井茂記『情報公開法』岩波新書</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	0 2	春学期集中	4 単位	吉 見 研 次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、受講者が現代日本法の概観を得るとともに、市民生活に特に関係の深い法律知識を身に付けることを目標とする。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、刑法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法等）、のそれぞれにつき概略を説明する。そのうえで、民法とその関連法のうち特に日常の市民生活に密接に関わる各種の法制度（売買その他各種の契約に関する法、事故と損害賠償に関する法、家族生活に関する法）を順次取り上げて解説する。</p> <p>なお私語は厳禁。その他受講時の留意事項につき、最初の授業の際に言及する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> I 現代日本法の概観 (1)公法分野〔憲法、刑法、国際法等〕、(2)私法分野〔民法、商法等〕、(3)社会法分野〔労働法等〕 II 契約の法律 (1)契約法序論〔成立と効力、無効と取消〕、(2)契約法各論〔売買契約、金銭消費貸借契約、借家契約等〕、(3)私法の原理と契約 III 事故と損害賠償の法律 (1)不法行為の要件〔一般、特殊、特別法〕、(2)不法行為の効果 IV 家族の法律 (1)夫婦の法律〔結婚、離婚〕、(2)親子・扶養等の法律、(3)相続の法律〔法定相続、遺言〕 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>正誤文選択等の短答式の学期末テストを予定している。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>奥田昌道他編『コンパクト六法 平成15年版』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	0 3	秋学期集中	4 単位	本 間 法 之
〔講義概要・学習目標〕 法学を学ぶことは、人間と人間社会を知ることであると思います。一見無機質な条文の背後には、人間の欲望や利害の衝突の調整に関する巧みな知恵や、人間そのものについての深い洞察が潜んでいることが少なくありません。本講義では、そのような観点から、なるべく身近な問題を取りあげて、それが現行の法律とどう関わっているのか、法のしくみや法のもつ意味などについて論じていく予定です。受講生諸君には、法学の学習を通じて、活きた人間社会の様々な現象についての理解を深めると共に、人間の生き方、社会のあり方に至るまで思索をめぐらしてもらうことを希望します。法学の勉強は、単に法律の条文を暗記したりすることではありません。例えば、結婚について、憲法 24 条は「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立」すると定めています。なぜ両性の「合意に基づいて」ではなく「合意のみに基づいて」なのか。このたった二文字の「のみ」に込められている意味を理解することが重要なのです。	〔講義計画〕 <ul style="list-style-type: none"> ① 法とは何か ② 国家生活と憲法 ③ 基本的人権－自由と平等 ④ 現代社会の人権－人間らしい生存のために ⑤ 行政と法 ⑥ 犯罪と刑罰－刑法の世界 ⑦ 教育と法 ⑧ 契約取引と法 ⑨ 市民生活と不法行為 ⑩ 企業と法 ⑪ 金融取引と法 ⑫ 家族生活と法 ⑬ 労働と法 ⑭ 私的紛争とその解決－裁判の世界 ⑮ 国際社会と法－国際法の世界 			
〔成績評価の方法〕 ①平素の勉学状況（講義への出席・課題等の提出・受講態度）と②期末考査の成績とを総合的に評価します。特に①に重点を置いた評価を行います。	〔参考文献〕 講義の際に、適宜紹介します。			
〔教科書〕 森泉 章 編 『法学（第2版）』（有斐閣） ¥2,500- なお、講義に際しては、平成 15 年版の「六法」を常に携行して下さい。 「六法」の種類は問いません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法	0 1 0 2	春学期集中 秋学期集中	4 単位 4 単位	松 田 聰 子
〔講義概要・学習目標〕 憲法の基礎を身近な例から習得することを目標にする。憲法が「最高規範性」であり「人権の法」であるとの理解を深めていくことになるが、日本国憲法のほか諸外国の憲法も素材にしていく。講義は統治機構論と人権論とに大別しすすめていく。統治機構論ではとくに司法制度を、また、人権論では、自己決定権をその責任という視点もあわせて考察していく。	〔講義計画〕 <ul style="list-style-type: none"> (1)近代憲法から現代憲法へ (2)日本国憲法の成立と特質 (3)国民主権①選挙制度 (4)国民主権②国民投票制度 (5)国民主権③天皇制 (6)権力分立①国会の地位と機能 (7)権力分立②議院内閣制 (8)権力分立③司法制度の現状 (9)権力分立④司法制度のこれから (10)人権思想の系譜 (11)人権論の課題①新しい人権 (12)人権論の課題②思想良心の自由 (13)人権論の課題③死刑制度 (14)人権論の課題④平等原則 (15)人権論の課題⑤自己決定権 (16)人権論の課題⑥信教の自由 (17)人権論の課題⑦表現の自由 (18)人権論の課題⑧社会権 (19)平和主義 (20)戦後改憲論の系譜 			
〔成績評価の方法〕 論述試験で判断	〔参考文献〕 芦部信義『憲法学』有斐閣 佐藤功『日本国憲法概説』学陽書房 佐藤幸治『憲法』青林書院			
〔教科書〕 中谷実編『ハイブリッド憲法』勁草書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学		春学期集中	4 単位	村 山 高 康
〔講義概要・学習目標〕 政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。 前半は、時代を近代に限定し、地域的には西欧の政治思想や学説を背景にして、国家の特質や近代民主主義の原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は近代西欧の歴史的背景をたどりつつ行うので、歴史への興味をもって受講されたい。 後半は、大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を、国際政治システムの形成と変遷、近代主権国家の変貌、民族紛争や環境問題、現代の政治思想、日本の行政機構や政策形成などを、多面的にとりあげて考察する。多くのテーマをとりあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズ・アップできるような講義を行う。 前半と後半では講義スタイルは異なるが、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前半の講義を十分に咀嚼することが重要である。	〔講義計画〕 1. 近代国家の成立と新たな政治原理の創出 2. 近代国家の発展と近代民主主義の形成 3. 近代国家における政治制度の発達 4. 近代市民社会と市民政治理論の成立 5. 日本の政治—近代化の諸問題 6. 国際政治システムの形成と変遷 7. 現代世界における主権国家の変貌 8. 民族紛争・南北問題・環境破壊などへの国際政治学的アプローチ 9. 現代世界の政治思想の諸潮流 10. 日本の政治—行政機構と政策決定過程の分析			
〔成績評価の方法〕 レポートおよび論述試験による評価	〔参考文献〕 講義の中で随時指示する			
〔教科書〕 特定の教科書は使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学（生物学Ⅰ） （旧 自然環境論）		春学期集中	4 単位	巖 圭 介
〔講義概要・学習目標〕 バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は21世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。 生物の基本、それはすべての生物が36億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。この授業では、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。	〔講義計画〕 ときおり時事問題なども絡めながら、おおむね以下のテーマを扱う予定 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ地球に生物がいるのか ・なぜ生物は進化するのか ・なぜ性があるのか ・なぜ利他的にふるまえるのか ・なぜ滅びゆく生物を守るのか 			
〔成績評価の方法〕 テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）	〔参考書〕 桑村哲生 『生命の意味』 裳華房 2001			
〔教科書〕 とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学（数学入門）		秋学期集中	4単位	明石吉三
〔講義概要・学習目標〕 <p>数学は文科系の学生諸君にとって軽視される傾向があるように思う。しかし、数学はあらゆる学問分野で共通に用いられ、対象の表現、分析、設計に不可欠なものである。</p> <p>本講義では、大学で学ぶために必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする。文科系学生のための数学入門というべき内容を目指したい。高校時代に学んだ数学の範囲が、学生諸君によってだいぶ異なるようである。このことを踏まえ、高校時代で学び、理解しているべき内容を中心に講義する。</p> <p>講義ごとに練習問題を提示し、理解が深まるようにしたい。数学が苦手と思う諸君に有益な講義となるように心がけたい。</p>	〔講義計画〕 <p>以下の内容を講義する予定であるが、進捗に応じ調整する。</p> <p>(1) 数と式 (2) 数列 (3) 個数の処理 (4) 縦列・組合せ (5) 確率 (6) 確率分布 (7) 指数関数・対数関数 (8) 微分、積分</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>試験及び出席状況の総合評価</p>	〔参考文献〕 <p>なし</p>			
〔教科書〕 <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学（日本人の起源） （旧人権・環境問題特講（日本人の起源））		春学期集中	4単位	尾本恵市
〔講義概要・学習目標〕 <p>法的には、日本人とは日本国民を指す。また歴史学では、日本人は、7世紀後半に成立した日本という国の人民を意味する。しかし、人類学や民族学では、日本という地域には多数派の「本土の人々」のほかに、少数派のアイヌや沖縄の人々などの民族集団が存在すると理解されている。さらに、考古学では、縄文時代、弥生時代、古墳時代など様々な時代に、それぞれ特徴的な文化をもつ人々がいたことが示され、現代日本人との関係が論議されている。この講義では、自然科学の立場から、日本人を「日本列島の過去および現代のヒト集団」ととらえ、その起源・由来（ルートとルーツ）について最新の研究成果をまじえて文科系の学生に判りやすく講義する。従来、人類の起源に関しては、主として人骨の形態にもとづく研究がなされてきた。しかし、1960年代から、遺伝子（DNA）の研究を利用する「分子人類学」という分野が発展し、いままでは謎であった疑問に答えられるようになった。</p>	〔講義計画〕 <p>文化系の学生に自然科学、とくにヒトの遺伝子や進化に関する最新の研究成果を理解させるため、専門用語はできるだけ避け、ビデオ教材等を多く用いて、わかりやすく講義する。また、毎回、出席票に感想や質問を書いてもらい、次の時間にそれらに答える事によって、できるだけ教師と学生間の双方向的な授業を心がける。内容はほぼ次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの進化と日本列島。 2. 日本人とは何か。日本人起源論の歴史。 3. 人種と民族（古い考え、新しい考え）。 4. アイヌの起源。 5. 縄文人と弥生人。 6. 今後の展開。 			
〔成績評価の方法〕 <p>出席点および期末試験の成績によって評価する。</p>	〔参考文献〕 <p>授業中に紹介する。</p>			
〔教科書〕 <p>尾本恵市「分子人類学と日本人の起源」裳華房（1996）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義（スポーツの歴史） （旧 近代体育スポーツ史）		秋学期集中	4 単位	高 橋 ひ と み
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代社会において重要な生活文化として取り入れられている「スポーツ」の歴史を、古代エジプト・ギリシャ・ローマまで遡り、政治や経済、社会環境との関連から学習する。</p> <p>「スポーツ」の歴史を知ることが、「スポーツ」の現在をより理解することにつながり、過去・現在を理解することは、今後の「スポーツ」の道を教えてくれることになる。激動する現代社会の中で、「スポーツ」のあり方を自己の中で確立していくことを目的とし、その目的達成のために本授業において学んだことを役立ててほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. 古代の体育・スポーツ ①エジプト ②ギリシャ ③ローマ</p> <p>2. 中世の体育・スポーツ</p> <p>3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ</p> <p>4. 近代の体育・スポーツ ①ドイツ ②イギリス ③スウェーデン ④フランス ⑤アメリカ ⑥日本</p> <p>5. 現代の体育・スポーツ</p> <p>6. オリンピック・パラリンピック</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>高橋ひとみ（編著） 「体育・スポーツ史」 西日本法規出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義（スポーツ科学） （旧スポーツ科学）		春学期集中	4 単位	今 西 俊 次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>スポーツ科学は人間そのものをあつかう総合科学であり、近年この分野の発展には著しいものがあります。その成果には、たんに「強く・高く・速く」という、一握りのトップアスリートだけのものではありません。健常者にとってはもちろんのこと、障害者や中・高年にとって有効なものです。</p> <p>本講義では、スポーツが生体に与える影響と体力がスポーツの成果に与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深めてください。また、スポーツの国際大会、MLB等に関する話題を取り上げ、スポーツの今日的問題についても考えてみます。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. 運動と骨格筋・神経系</p> <p>2. 運動と呼吸・循環系</p> <p>3. 運動と発育・発達</p> <p>4. 運動と環境</p> <p>5. 運動と身体組成</p> <p>6. 運動と疲労</p> <p>7. 運動と栄養</p> <p>8. ドーピング</p> <p>9. 体力と体力測定</p> <p>10. トレーニングの基礎理論</p> <p>11. トレーニングの種類と方法</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート（コメント）、テストなどにより総合的に評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業の進行に合わせて連絡します。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義（生涯スポーツ論）		春学期集中	4 単位	高 橋 ひ と み
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達は一々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。</p> <p>激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。</p> <p>健康生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」「休養」「栄養」であるが、本講義においては、生涯を通じての「生活と運動」について、特に留意して学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念 2. 健康な生活と環境 3. 休養と健康 4. 栄養と健康 5. 体育とスポーツおよびレクリエーション 6. 心身の発達と体育 7. 遊びと生活 8. 家庭体育 9. 学校体育 10. 社会体育 11. 青年期・壮年期の体育 12. 体力と体育の心理 13. 運動生理 14. 社会の変化と健康生活 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験および小テストにより成績評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「健康科学概論」 緒方正名編著 高橋ひとみ他著 朝倉書店</p>				

「健康・スポーツ学演習」クラス一覧

クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者
1 1	藤木 泰治	2 7	辻井 義弘	4 6	尾崎 憲三	6 8	志水 正俊
1 2	藤木 泰治	2 8	辻井 義弘	4 7	児玉 公正	7 1	前山 直
※1 3	高 成廈	2 9	辻井 義弘	5 1	末野 幹敏	7 2	前山 直
※1 4	高 成廈	※3 1	高橋 ひとみ	5 2	見正 秀基	※7 6	松浦 道夫
1 5	藤木 泰治	3 2	浜口 雅行	※5 3	長谷川修一郎	※7 7	長谷川修一郎
※1 6	高 成廈	3 3	松浦 義昌	5 4	松浦 義昌	※8 1	高橋 ひとみ
※1 7	高 成廈	3 4	中神 勝	5 5	前山 直	※8 2	松浦 道夫
2 1	末野 幹敏	3 5	眞来 省二	※5 6	長谷川修一郎	8 3	浜口 雅行
※2 2	長谷川修一郎	3 6	眞来 省二	※6 1	松浦 道夫	※8 4	今西 俊次
※2 3	高 成廈	※3 7	今西 俊次	※6 2	今西 俊次	※8 5	長谷川修一郎
※2 4	今西 俊次	4 1	尾崎 憲三	6 6	見正 秀基	8 6	児玉 公正
2 6	吉井 泉	※4 2	今西 俊次	6 7	志水 正俊	8 7	児玉 公正

1. 学則上、この科目は「共通教養科目（4単位）」に位置づけられています。
2. 詳細については、「健康・スポーツ学演習要項」（新年度書類在中）を熟読してください。
3. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対象者：02・03(E・SS・SW・B・LE・LI)生は全クラス対象
02・03J生は**※印のクラスのみ履修可です。他のクラスは履修できません。**

日時：4月5日（土） 9:10～13:00（昼休憩なし）

場所：教務課窓口

申込方法：先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

<注意> 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認しておいてください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学際科目（現代社会経済の諸問題）		春学期集中	4単位	巖 善平
【講義概要・学習目標】 この講義では、現代社会に存在している様々な問題（とくに経済問題）を取り上げて分かりやすく説明する。例えば、日本経済の失われた十年をどう見るか、かつて美しく謳歌されていた日本の経営はどのようにして効力をなくしてしまったか、平等社会であった日本はどのようにして格差社会に移ったのか、経済のボーダーレス化・グローバル化・市場至上主義ははたして人間に幸福をもたらすのか、経済開発と環境保護が両立しうるものなのか、南北問題の深刻化と貧困の根絶は可能か、等々。特定のテーマに拘らず、人々の関心が割合集まっているいろんな話題を受講生とともに選び出す。また、個々の問題については専門的に解説し深く考えてもらうというよりも、様々な問題の実態やそれらに対するいろんな考え方を知ってもらい、そして、自らがそうした問題を考えるきっかけを見付けられたら、それでよい。本講義はこうした目標を目指している。	【講義計画】 <ul style="list-style-type: none"> 最初の講義で主要な社会経済問題をリストアップして受講生の意見を聴取する。 個々の問題について、まずなぜ問題なのかを明らかにする、次にその問題に関する基礎知識を解説する、最後にその問題に対する様々な考え方を紹介する。 世の中の動きを日頃よく考えている、熱意のある学生の受講を歓迎する。 			
【成績評価の方法】 中間レポート＋期末試験	【参考文献】 『日本の論点』2002年版、2003年版 『日本経済新聞』、『朝日新聞』など			
【教科書】 未定。後日指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学際科目（インドネシアの人口問題）		秋学期集中	4単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 人口あるいは人口問題の観点から東南アジア、とくにインドネシアという地域の特性に迫ってみる。 インドから中国や日本にかけてのモンスーン・アジアにあって、東南アジアは「小人口世界」であった。そのなかでジャワが中心的であった。まずその生態学的な構造はどうなっていたかを考える。 インドネシアのきわめてアンバランスな人口配置の特徴を検討する。その中からとくにジャワ島とバリ島の過剰人口が重大な問題として浮かび上がってくる。その歴史的な背景も重要な検討事項となるだろう。 ジャワの中心性とその問題点が明らかになることでインドネシアの政治や経済、さらには文化に対する理解が容易になるはずである。 なお視覚的な理解のためにビデオ資料を用いる。	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 小人口世界としての東南アジアとインドネシア インドネシアの人口事情＝2000年センサスを読む あわせてインドネシアの宗教分布の特徴 ジャワの中心性 生態学的背景 ジャワの人口増加の歴史 ジャワ農村の人口問題 			
【成績評価の方法】 時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。	【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典 東南アジア 風土・生態・環境』（弘文堂 1997）〔桃园R292.3〕			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義（会社って何だ？）		秋学期集中	4単位	長谷川 彰
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、主として経営学部以外に所属する学生諸君を対象したものである。したがって、受講生の大半は「経営学」をはじめて耳にする学生であることを前提としたい。</p> <p>経営学は、必ずしも「会社」だけを取り扱う学問ではないが、われわれの身近に存在する「会社」を取り上げ、それを通じて「経営学」とは何なのか、何を明らかにする学問なのかという問題に迫っていききたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業形態論 2. 株式会社論 3. 所有と経営の分離論 4. 企業の発生、発展 5. 現代企業論 6. 「会社」ってなんだ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験を中心に行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時あげることにしたい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義（リスクと保障）		春学期集中	4単位	武田 久義
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間行動の原点の一つに、リスクへの対応がある。リスクへの対応に失敗すると、極端な場合には滅びを迎える。人類の歴史を眺めてみた場合、現在は第三の大きな転換期にあるのではないかと考えられる。私達は、これまで経験したことのない情報化社会という新しい社会に入っていくつつあるのである。そして、新しい社会には新しいリスクが付け加わる。さらに、社会が高度になればなるほど、様々なリスクが充満すると言われている。</p> <p>新しい酒は新しい革袋に入れなければならない。私達は、まず新しいリスクについて知る必要がある。そして、それぞれのリスクに対応して、それにふさわしいシステムを構築する必要がある。そのためには、まず第一に歴史に学ぶことが必要である。人類の過去の歴史を学ぶことを通して、新しい展望をひらくのである。第二に、これまで様々な民族によって様々な生き方がなされてきていることを確認することである。このことは、リスクへの対応においても顕著に現れている。そして、以上のことを現在および将来に予想されるリスクに関連させて学習する。</p> <p>リスクと保障というテーマのもとに、人類のリスク対策の歴史を縦糸とし、さらに東洋と西洋におけるリスク対策の相違を横糸として、両者を交錯させながら講義を行っていききたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>主な講義の内容は、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> * リスクの意味と人間にとってのリスクの位置づけ。 * リスク対策の歴史。 * リスク認識について。 * 現代社会とリスク・保障。 * リスクマネジメントについて。 * 情報化社会におけるリスクとリスクマネジメント。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テストとレポートによる。なお、出席も参考にする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義（法女性学）		秋学期集中	4 単位	松 田 聰 子
[講義概要・学習目標] 男女共同参画社会基本法が制定されて、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが具体化してきている。法女性学では、民法や社会保障法などを素材にわが国における女性・男性・性をとりまく法環境を概観し、ジェンダーの視点から法制度の問題点を探っていく。	[講義計画] (1) 堕胎罪と中絶規制 (11) 日本型福祉社会の問題点②女性の年金 (2) 中絶と生む権利 (12) セクシュアリティ①売買春規制 (3) 優生保護法から母性保護法へ (13) セクシュアリティ②性暴力と刑法 (4) 家族と法①婚姻制度 (14) セクシュアリティ③ (5) 家族と法②人工生殖と子 セクシュアルハラスメント (6) 家族と法③人工生殖とフェミニズム (15) 労働法と女性 (7) 家族と法④「選択的夫婦別姓制」の論点 (16) 男女雇用機会均等法の課題 (8) 家族と法⑤「離婚制度」見直し論 (17) 女性と政治 (9) 家族と法⑥夫婦財産制 (18) 女性差別撤廃条約・北京会議 (10) 日本型福祉社会の問題点①介護と保育			
[成績評価の方法] 論述試験で判断	[参考文献] 金城清子『ジェンダーの法律学』日本評論社 角田由紀子『性差別と暴力』有斐閣 副田隆重他『ライフステージと法』有斐閣			
[教科書] とくに用いない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義（米国の刑事裁判制度）		秋学期集中	4 単位	小早川 義 則
[講義概要・学習目標] 日米の政治的経済的かわりは密接でテレビ等を介してとりわけ刑事事件を主題とした映画等に接する機会は少なくないが、米国の裁判制度についての正確な知識は十分とは思われない。 本講義では、近時のシンプソン事件等を素材に陪審裁判の仕組みや司法取引等の意義を解説することによって米国の刑事裁判制度に関する知識を提供し、あわせてわが国での裁判員制度の導入等の問題点についての理解を容易にしたいと考えている。	[講義計画] まず日米裁判制度の共通点、相違点を簡単に説明したあと、近時の比較的名なアメリカ映画を視聴し、その感想文を提出させる。その後、写真入りの詳細なレジュメを用いて米国の刑事裁判制度の仕組みを説明しつつ、わが国の刑事裁判制度の問題点について触れることとした。			
[成績評価の方法] 平常点および期末テストを総合して評価する。	[参考文献] 小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』（成文堂、2003年8月刊予定）、 その他、適宜指示する。			
[教科書] 小早川義則『ニューヨーク日記』（成文堂、2003年8月刊予定）、 藤倉皓一郎ほか編『英米判例百選[第三版]』（別冊ジュリスト139号）（有斐閣、1996年）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義（変容する雇用の世界） （旧労使関係論 01生以上対象）		秋学期集中	4単位	上 田 修
[講義概要・学習目標] 近年、リストラによる失業、フリーターをはじめとした不安定就業者の増大、能力主義から成果主義といった雇用ならびに人事処遇に関わる問題が新聞、テレビニュース等のマスメディアでしばしば取り上げられる。これらのうごきはバブル景気崩壊後の長期におよぶ不況によることはいままでのないが、同時に、1980年代から進行していた日本企業の人事政策の展開、さらに人々の職業意識の変化を反映したものである。この点をふまえて、この授業では、ここ 20 年ほどの間に進行した雇用をめぐる問題を講義計画に示すテーマにそって迫ってみたい。	[講義計画] はじめに I 概観：雇用と職業の世界 1 わが国の現状 2 鏡としてのアメリカ II 変容する雇用の世界 1 日本的雇用慣行の変容 2 学校から職業へ：職業選択のプロセス 3 フリーターという生き方・働き方 4 雇用均等法と女性の働き方 5 派遣という働き方 6 主婦の選択：パート・専業主婦 7 ホワイトカラーの世界 8 裁量性の世界：変化する働き方 9 リストラ：中高年の悲哀？ 10 失業 11 過労死 12 退職・年金生活から生涯雇用社会へ 13 世代間対立？ 各世代の受難			
[成績評価の方法] 学期末試験の成績で評価する。	[参考文献] 各講義概略（レジュメ）で指示する。			
[教科書] 使用しない。ただし、講義の各パートに入る時、講義内容の概略（レジュメ）を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義 比較社会論（旧比較社会論 01生以上対象）		春学期集中	4単位	清 水 由 文
[講義概要・学習目標] われわれは日常生活で比較という方法をとって物事を考えたり、決定したりしています。社会科学ではその比較の見方は歴史的に見る方法と同じくらい重要な方法なのです。現在日本の社会も例外ではなく世界のグローバル化のなかにあります。そのような中であっても日本の社会は伝統的性格をもっているはずなのです。本講義では一応先進国社会（イギリス、アメリカ、アイルランド、フランスなど）と発展途上国社会（タイ、中国など）の比較をとおして日本社会の現代的特質を考えることを目的にしています。それを主になわれわれの身近な家族を比較の対象にして考えてみたいのです。すなわち家族の比較社会論という講義になると思います。	[講義計画] 1. 比較社会の方法 2. 比較社会の枠組み 3. 日本社会と日本の家族の特徴 4. イギリス社会とイギリスの家族の特徴 5. アメリカ社会とアメリカの家族の特徴 6. アイルランド社会とアイルランドの家族の特徴、 7. 中国社会と中国の家族の特徴 8. タイ社会とタイの家族の特徴 9. まとめ なお以上のようなテーマに対して適宜ビデオを用いることにより視覚的に理解できるようにしていきたいと思う。			
[成績評価の方法] 試験、レポート、講義中の小レポートによる総合評価。	[参考文献] 随時紹介する			
[教科書] 清水・菰刈編『変容する世界の家族』、ナカニシヤ出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義 (文化財保護の諸問題) (旧博物館学特講 (文化財保護の諸問題))		秋学期集中	4単位	井 上 敏
【講義概要・学習目標】 一口に「文化財保護」といっても様々な分野からのアプローチがある。自然科学的手法を応用した分野である保存科学や社会科学的手法による文化財政策等が挙げられる。この様な広い領域にわたる文化財保護に関する分野と概説しなから問題点を考えてい。	【講義計画】 1. 文化財保護と博物館 2. 文化財保護政策の概要と問題点 3. 保存科学とはどういう分野か 4. 文化財学の可能性			
【成績評価の方法】 出席点と試験	【参考文献】 講義の中で適宜挙げます。			
【教科書】 適宜指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法A (旧民法Ⅰ)		春学期集中	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] 民法は、市民（私人）と市民（私人）との間の法律関係を起立する法律であり、私たち市民の日常生活に最も密接な法律関係を有する法律である。 民法は1896年に成立したが、その中の財産法の分野である「総則」編、「物権」編、および「債権」編の各分野は、ほとんど改正されていない（一方、家族法の分野である「親族」編および「相続」編は、男女平等・個人の尊重の観点から1947年に全面改正された）。それは、わが国が私有財産制度を採っているからである。したがって、民法の財産法を学習することは、これからの市民生活に直接役立つだけでなく、わが国の社会・経済の法的システムを理解することの一助となるであろう。この科目では、「総則」編を中心として講義するが、それと関係する範囲で「物権」編や「債権」編に定める各種の法制度についても説明する。	[講義計画] 下記のテーマの中の現代的な重要問題について講義する。 1 民法とは？ 2 民法の基本原則 3 権利の主体（その1—自然人） 4 意思能力と行為能力 5 権利の主体（その2—法人と民法上の団体） 6 権利の客体（物） 7 法律行為 8 意思表示 9 代理（有権代理、無権代理、表見代理） 10 無効と取消 11 条件・期限・期間 12 時効			
[成績評価の方法] 小テスト（月1～2回程度）および期末テストの結果を総合評価する。	[参考文献] 三和一博 編『演習ノート 民法総則・物権法【全訂版】』（法学書院）			
[教科書] 清原泰司ほか著『ファンダメンタル法学講座 民法1 総則』（不磨書房） なお、授業では、必ず『六法』を参考すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法B (旧民法Ⅱ)		秋学期集中	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] この科目では、まず、物に対する権利である物権について講義する。その際、人に対する権利である債権との相違点について詳しく説明する。次に、債権の回収を確保するため、債務者又は第三者が所有する物に設定される担保物権について講義する。さらに、担保物権と関連する債権法上の諸制度についても言及する。なお、講義は、できるだけ具体的事例を交えながら行うが、この科目をより深く理解するためには民法総則の知識も必要なので、民法Aを履修しておくことが望ましい。	[講義計画] 下記のテーマの中の現代的な重要問題について講義する。 1 物権とは？—債権との相違 2 不動産の物権変動 3 動産の物権変動 4 動産の即時取得 5 用役物権—地上権、永小作権、地役権、入会権 6 人的担保—連帯債務、保証債務、連帯保証 7 物的担保—留置権、先取特権、質権、抵当権、譲渡担保 8 抵当権の効力—物上代位 9 債権譲渡 10 相殺			
[成績評価の方法] 小テスト（月1～2回程度）および期末テストの結果を総合評価する。	[参考文献] 平井一雄編『民法Ⅱ「物権」』（青林書院） その他、適宜、指示する。			
[教科書] 未定。 なお、授業では、『コンパクト六法』、『ポケット六法』又は『デイリー六法』等の『六法』を必ず持参してください。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国 際 法		秋学期集中	4 単位	軽 部 恵 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このクラスでは国際法の基礎を習得します。国際法がわかると、新聞やTVの国際ニュースがわかります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。</p> <p>春学期の国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎的知識を確認しつつ、講義を進めます。国際法を履修する人は、国際機構論を先に履修するか、高校程度の世界史を各自で勉強して下さい。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。</p> <p>国際法に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ等を教材として使用します。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際法とは何か：「国」と「国際」の意味、合意秩序 他 2. 国際法の歴史：ウェストファリア条約、グロチウス『戦争と平和の法』、ハーグ平和会議、2つの世界大戦 他 3. 国際法の主要原則：「合意は拘束する」 他 4. 国際法の法源：条約、慣習法、判例、強行規範 5. 国際法の主体：国家、国際機構、人民、個人 6. 国家：国家成立の要件、主権、国家の基本権能、国家管轄権、国家責任、国家承認と政府承認、国家承継 7. 領域：領域の得喪、領土、海の国際法、空の国際法 8. 外交：外交関係、外交使節、外交特権、領事関係 9. 条約：条約案の交渉、署名、批准、加入、改正、終了、無効、留保、条約の承継 他 10. 国際紛争の平和的解決、武力紛争の規制、テロ、軍縮 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験（2004年1月）</p> <p>※ 講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くため、いわゆる「出席点」にはなりません。</p>		<p>[参考文献] -- 国際機構論のページも見て下さい --</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際法学会編 『国際関係法辞典』 三省堂 1995年 ・山本草二 『国際法（新版）』 有斐閣 1994年 ・横田洋三編 『国際法入門』 有斐閣 1997年 ・大沼保昭編 『資料で読み解く国際法』 第2版 全2巻 東信堂 2002年 ・奥脇直也他著 『国際法キーワード』 有斐閣 1997年 ・『世界の戦争・革命・反乱 総解説』 自由国民社 1998年 ・田畑茂二郎編 『ケースブック国際法（新版）』 有信堂高文社 1995年 <p>※ その他の文献については、随時指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有斐閣『国際条約集2003』〈生協にて一括購入〉 ・教員作成の資料 <p>※ 履修登録前に「2003年度 国際法・国際機構論を履修する皆さんへ（勉強のガイド）」を必ず一読して下さい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 理 学		春学期集中	4 単位	清 水 真 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>我々は考える。論理的に考えることは、ものごとを思考するときの基本である。思考の筋道やいかに？ 日常生活の中で安易に納得していること、また、自明であると連断してしまっていることの中には、思考の筋道を考えなおしてみると、手に負えないほど厄介であることが数多くあると感じた学生諸君もおられると思う。また、そのようなことは自分の性に合わないとはじめから決め込んでいる方もおられよう。本講では、日常生活のなかに題材を見つげながら論理の基本を学修していくことを目標とする。とくに、ルイス・キャロルの格子図を用いた論理的手法を中心に学び、また、現代記号論理学における命題論理学と述語論理学についても学ぶ。なお、本講の性格上、「計算」などの訓練を避けておることができない。従って、毎回、講義の一部を練習問題に費やすことになる。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活のなかの論理 2. 思考の法則 3. 名辞論理学 4. 命題の論理 5. 述語の論理 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小テスト・期末試験に基づき総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>山川偉也・清水真一著『論理開眼』（世界思想社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際関係論		秋学期集中	4 単位	松村昌廣
[講義概要・学習目標] 国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。	[講義計画] 1 導入 1) 国際関係論と国際関係における日本 2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解 3) 社会科学における認識・方法的論争と国際関係論 (1) 現実主義 VS 理想主義 (2) 伝統主義 VS 科学主義 (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義 (4) 講師の見解 2 総論 1) 基本的捉え方 (1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム (4) 講師の見解 2) 分析のレベル (1) 政策決定システム (2) 国家システム (3) 国際システム (4) 講師の見解 3 各論 1) 軍事的側面 (1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解 2) 経済的側面 (貿易・金融・投資・技術・開発) (1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義 (3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解 3) 秩序づけのための組織化側面 (1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム 4 結論 1) 冷戦後の国際構造 2) 日本の国際行動とその将来			
[成績評価の方法] 1) 出席・受講状態 50% 2) 前期試験 20% 3) 後期試験 30% 4) 冬休みレポート 20% (希望者のみ) * 冬休みレポート 参考文献3冊を読み、各著者の (1) 国際政治観 (2) 国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しなさい。 ** 評価の目安 80~100% A 70~79% B 60~69% C				
[教科書] P.ピオティ&M.カピ『国際関係論』(彰流社) ロバート・ギルビン『世界システムの政治経済学』(東洋経済新報社) 但し、後者については絶版となっているので、必要箇所をコピーのうえ配付する。前者については、各人、確保すること。	[参考文献] E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫) モーゲンソー『国際政治』(福村出版) シューマン『国際政治』(東大出版会)			

共通自由
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治史		春学期集中	4 単位	鈴木博信
[講義概要・学習目標] 主題は「冷戦史：1945~1991」です。 ― 米ソ両超大国を軸とし、米ソ両超大国を軸とする冷戦史を、冷戦の発端、冷戦の拡大、冷戦の終結の観点から、冷戦の歴史を振り返る。 ― ニュースの「戦争報道」を軸とし、「冷戦」の時代を、その時代から、「冷戦」は今日どの時代に生きているか? という問題を提起する。 ― 以上の問題を軸とし、冷戦の歴史を振り返る。冷戦の歴史の主要な事件の中心に焦点を当て、その事件がどのような影響を及ぼしたか、その背景や理想をその時代の状況で、語る予定。	[講義計画] 1 ヌーロッパにおける冷戦の起源 : 1945~49 2 共産中国とアジアにおける冷戦 : 1945~53 3 「平和共存」と核対決 : 1953~64 4 アメリカとベトナム : 1945~75 5 米ソ両超大国と共産中国 : 1949~80 6 70年代米ソ緊張緩和の進行と停滞 7 レーガン、ゴルバチョフ、冷戦の終結 : 1981~91 8 回顧と展望			
[成績評価の方法] ① 年度末試験(レポートあり) ② 必要に応じて課外レポート、不综合に判定する。	[参考文献] ○ 高級正亮「現代・国際政治」講談科学館文庫 1989 ○ 田中浩「戦後世界政治史」講談科学館文庫 1994 ○ 仲見「ソ連・アメリカの戦国 - ソ連の外交政策」文芸春秋 1992 ○ 森本良男「冷戦一人事件」アイマル出版会 1995 ○ フォーリス、夏錫編「ヨーロッパ」上巻 河出書房新社 1990 ○ フィンケム、鈴木博信訳「冷戦と共存 - ソ連外交史」全巻 アイマル出版会 1974			
[教科書] 特定の教科書の使用はせん。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際機構論		春学期集中	4単位	軽部恵子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このクラスでは国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。大量破壊兵器の軍縮、武力紛争、環境問題、貧困を解決するのに、国連を中心とした国際協力は欠かせません。国連について勉強したい人、国際問題に強くなりいたい人など、意欲的な学生を待っています。</p> <p>国際機構論では、大学生に必要な世界史の基礎的知識を確認しながら講義を進めます。秋学期に国際法を履修する人は、国際機構論から履修することを強く勧めます。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。</p> <p>国際機構に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ（HP）等を教材として使用します。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際機構とは何か：「国際」の意味、国際機構の定義 2. 国際機構の歴史：ウィーン会議、ハーグ平和会議、国際行政連合、赤十字国際委員会の誕生 3. 第一次世界大戦と国際連盟の設立：ウィルソン大統領の「14カ条」、パリ講和会議、国際連盟規約 他 4. 第二次世界大戦と国際連合の設立：ダンバートン・オークス会議、ヤルタ会談、サンフランシスコ会議 他 5. 国連の目的と仕組み：国連憲章、主要機関（総会、安保理、経済社会理事会、信託統治理事会、事務局、国際司法裁判所）、国連の専門機関、NGO、国連HP実習 6. 国際の平和と安全の維持：紛争の平和的解決、安保理と拒否権、幻の「国連軍」、平和維持活動 他 7. 軍縮問題への取り組み 8. 経済・社会・人権・人道問題への取り組み 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験（2003年7月）</p> <p>※ 講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くため、いわゆる「出席点」にはなりません。</p>	<p>[参考文献] -- 国際法のページも見て下さい --</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田康彦『図解 国連のしくみ』日本実業出版社 1995年 ・国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年 ・横田洋三編『国連による平和と安全の維持：解説と資料』国際書院 2000年 ・同編著『新版 国際機構』国際書院 2001年 ・高井晉『国連PKOと平和協力法』真正書籍 1995年 ・藤田久一『国連法』東大出版会 1998年 ・松井芳郎『湾岸戦争と国際連合』日本評論社 1993年 <p>※ その他の文献については、随時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国連広報局編『国際連合の基礎知識』増補改訂第5版、世界の動き社、1999年 <生協にて一括購入> ・教員作成の資料 <p>※ 履修登録前に「2003年度 国際法・国際機構論を履修する皆さんへ（勉強のガイド）」を必ず一読して下さい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治事情研究		春学期集中	4単位	松村昌廣
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。</p> <p>しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、右の「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。これにより、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを事例を示しながら学生に理解させたい。</p> <p>ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。したがって、国際関係論や政治学のコースを履修したことがない者でもかなり理解できるような教授法となる。（私の「国際関係論」も是非チャレンジすることを強く進める。）</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際関係論と地域研究 2) システム論的アプローチ 3) 比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」 2. 各論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 民族紛争 2) 国際テロ・アフガン問題 3) 東アジア <ol style="list-style-type: none"> (1) 朝鮮民主主義人民共和国 (2) 中華人民共和国 (3) 日本 3. 結論 「ポスト冷戦」後の地域研究 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Aを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成</p> <p>B・Cを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける</p> <p>出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>H・J・ウィーアルダ「比較政治の新動向」東信堂、1991。</p> <p>G・アーモンド、B・パーウェル「比較政治」時潮社、1986。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>購入の必要はない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者												
地域研究Ⅰ (旧 地域研究Ⅰ (欧米の政治と社会))		通期	4単位	捧 堅 二												
[講義概要・学習目標] 現代のアメリカ及び西欧について政治を中心に歴史や思想もまじえて講義する。	[講義計画] <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>1 「西洋文明」</td> <td>2 「二つの近代」</td> </tr> <tr> <td>3 21世紀の新しい現実</td> <td>4 アメリカという国</td> </tr> <tr> <td>5 共和党と民主党</td> <td>6 クリントンの「変革」</td> </tr> <tr> <td>7 イギリスという国</td> <td>8 福祉国家</td> </tr> <tr> <td>9 プレアと「第三の道」</td> <td>10 アソシエーションと市民社会</td> </tr> <tr> <td>11 戦後アメリカの光と影</td> <td>12 イラク、北朝鮮</td> </tr> </table>				1 「西洋文明」	2 「二つの近代」	3 21世紀の新しい現実	4 アメリカという国	5 共和党と民主党	6 クリントンの「変革」	7 イギリスという国	8 福祉国家	9 プレアと「第三の道」	10 アソシエーションと市民社会	11 戦後アメリカの光と影	12 イラク、北朝鮮
1 「西洋文明」	2 「二つの近代」															
3 21世紀の新しい現実	4 アメリカという国															
5 共和党と民主党	6 クリントンの「変革」															
7 イギリスという国	8 福祉国家															
9 プレアと「第三の道」	10 アソシエーションと市民社会															
11 戦後アメリカの光と影	12 イラク、北朝鮮															
[成績評価の方法] ①出席状況(3分の2以上の出席が必要)。 ②レポート・小テストを実施。 ③定期試験を実施する。 ④成績評価は厳格に行う。 注意:講義中の私語、飲食は許さない。	[参考文献] 講義の際に随時あげる。															
[教科書] 使用しない																

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者		
地域研究Ⅱ (旧地域研究Ⅱ (ロシア・東欧の政治と社会))		秋学期集中	4単位	鈴木博信		
[講義概要・学習目標] 『ソビエト帝国の興隆と崩壊』が全体のテーマです。今期は、帝国の建国理念である「共産主義」についての解説にも時間を割く予定です。	[講義計画] <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 共産主義の理論と行動計画 1-1. 正統上の先行者たち 1-2. マルクスとエンゲルス 1-3. アニキニシヤナルとソ連の崩壊 2. レニン主義 2-1. ロシアの革命伝統 2-2. 1917年の2つの革命 2-3. 革命の輸出 3. スターリンの帝国 3-1. スターリン書記長 3-2. 工業化と集団化 3-3. 大粛清 3-4. 第二次大戦とロシアの戦い 3-5. 東欧への侵略と露露 4. フルチコフ改革者たち 4-1. スターリン批判 4-2. 東欧の激動(1) </td> <td style="vertical-align: top;"> 5. 停滞のブレジネフ時代 5-1. ソ連と中国 5-2. 東欧の激動(2) 5-3. アフガニスタン 6. ゴルバチョフ改革者たち 6-1. フルチコフの教訓と政治改革 6-2. 東欧の激動(3) 6-3. 2人の大統領と帝国の崩壊 7. 西側の対心 7-1. コミンテルンと西側世界の共産主義者たち 「同僚者たち」 7-2. 共産主義とナチズム 7-3. 冷戦と西側共産主義者たち 7-4. オーストリアは。 </td> </tr> </table>				1. 共産主義の理論と行動計画 1-1. 正統上の先行者たち 1-2. マルクスとエンゲルス 1-3. アニキニシヤナルとソ連の崩壊 2. レニン主義 2-1. ロシアの革命伝統 2-2. 1917年の2つの革命 2-3. 革命の輸出 3. スターリンの帝国 3-1. スターリン書記長 3-2. 工業化と集団化 3-3. 大粛清 3-4. 第二次大戦とロシアの戦い 3-5. 東欧への侵略と露露 4. フルチコフ改革者たち 4-1. スターリン批判 4-2. 東欧の激動(1)	5. 停滞のブレジネフ時代 5-1. ソ連と中国 5-2. 東欧の激動(2) 5-3. アフガニスタン 6. ゴルバチョフ改革者たち 6-1. フルチコフの教訓と政治改革 6-2. 東欧の激動(3) 6-3. 2人の大統領と帝国の崩壊 7. 西側の対心 7-1. コミンテルンと西側世界の共産主義者たち 「同僚者たち」 7-2. 共産主義とナチズム 7-3. 冷戦と西側共産主義者たち 7-4. オーストリアは。
1. 共産主義の理論と行動計画 1-1. 正統上の先行者たち 1-2. マルクスとエンゲルス 1-3. アニキニシヤナルとソ連の崩壊 2. レニン主義 2-1. ロシアの革命伝統 2-2. 1917年の2つの革命 2-3. 革命の輸出 3. スターリンの帝国 3-1. スターリン書記長 3-2. 工業化と集団化 3-3. 大粛清 3-4. 第二次大戦とロシアの戦い 3-5. 東欧への侵略と露露 4. フルチコフ改革者たち 4-1. スターリン批判 4-2. 東欧の激動(1)	5. 停滞のブレジネフ時代 5-1. ソ連と中国 5-2. 東欧の激動(2) 5-3. アフガニスタン 6. ゴルバチョフ改革者たち 6-1. フルチコフの教訓と政治改革 6-2. 東欧の激動(3) 6-3. 2人の大統領と帝国の崩壊 7. 西側の対心 7-1. コミンテルンと西側世界の共産主義者たち 「同僚者たち」 7-2. 共産主義とナチズム 7-3. 冷戦と西側共産主義者たち 7-4. オーストリアは。					
[成績評価の方法] ①年度末の試験(レポートにかえることあり)が主体。 ②は毎に依りて小レポートを課す。	[参考文献] 随時、指示します。 そのほかにも―― <ul style="list-style-type: none"> ・アダム・ウラム; 鈴木博信「膨脹と共存―ソビエト外交史」全3巻, サイマル出版会 1974 ・川端香男里ほか「ロシア・ソ連を知る事典」平凡社 1990 ・伊東孝之ほか「東欧を知る事典」平凡社 1993 ・南塚信吾「東欧革命と民衆」朝日新聞社 1992 ・マルクス, エンゲルス; 鈴木博信「共産主義者宣言」太田出版 1993 					
[教科書] 特定のテキストは使用しません。						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 史	0 1	春学期集中	4単位	寺 木 伸 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、日本の歴史全体を概述することになるが、その際、民衆の視点、とくに差別され迫害されてきた民衆の視点で従来の日本史を見直していくよう努力したい。そのことにより、いままで隠されてきた真実や埋もれてきた史実が少しずつ明らかになっていくと思う。</p> <p>歴史とは、単に過去のことを興味本位に断片的に知るのではなく、現在を理解するためにこそ過去の事柄を系統的に理解し、研究することである。日本史を大きな流れにおいて理解できるように工夫をしていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史とは何か 2 歴史の見方 3 日本列島での人間の歴史の始まり 4 縄文時代の社会と文化 5 古代国家と民衆 6 中世文化と被差別民衆 7 近世身分制社会と被差別部落 8 明治維新と近代化――その光と影―― 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に実施する試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>小和田哲男『日本の歴史がわかる本』古代～南北朝時代編、室町・戦国時代～江戸時代編、幕末・維新～現代編、三笠書房</p>			
<p>[教科書]</p> <p>竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編『教養の日本史』東京大学出版会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	0 2	通 期	4 単位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>古代から現代までの日本歴史の展開を身分制の変遷を中軸にしてたどる。基本史料の読解に重点をおく。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)人権と身分制 (2)世界史上の良賤制 (3)古代律令制国家・王朝国家と身分制 (4)中世荘園制国家と身分制 (5)近世幕藩制国家と身分制 (6)近代天皇制国家と身分制 (7)現代民主制国家と身分制 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験（講義に欠かさず出席して、理解に努めていれば単位取得は容易。欠席したり授業に集中していなかったりすれば単位取得は困難。）</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>資料を配付する。ただし、配付時に出席していた人に1回限りで配付する。そのとき欠席した人には追加配付は行わない。資料を持参するのを忘れたり、なくしたりした人に対する再配布も行わない。毎時資料を持参なければ授業理解困難。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	01	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。</p> <p>この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの見方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。</p>	<p>・担当者の講義 総論： 1、歴史研究の持つ問題性 2、ヨーロッパ中心史観の問題性 3、現代史をどう解釈するか。 4、歴史学における「政治的なもの」</p> <p>各論： 5、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義～ドレフュス事件 6、ナチのユダヤ人政策 7、ユダヤ人大量虐殺をめぐる戦後の論議</p> <p>・ビデオ上映 近現代史、歴史教育、ナチズムなどに関するビデオを複数回観てもらおう。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
主として学年末試験で評価する。	<p>参考文献は授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。</p> <p>・栗原 俊、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策 ―ホロコースの起源と実態』ミネルヴァ書房 ・西岡昌紀、『アウシュウッツ「ガス室」の真実』、日新報道 ・ハーバーマス、ノルデ他著、『過ぎ去ろうとしないう過去 ―ナチズムとドイツ歴史家論争』、人文書院</p>			
[教科書]				
使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	02	秋学期集中	4 単位	坂 昌 樹
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>これは教職を中心にした授業です。</p> <p>社会科学教育をおこなううえで必要な考え方や教え方に重点をおいた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思えます。</p> <p>授業では、教育実習にあわせた高校用教科書を使つての模擬授業や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論などをおこないます。おもに教員免許の取得をめざす学生の参加が望まれますが、授業へ積極的に参加する気のある方ならどなたでも歓迎します。</p> <p>学ぶテーマとしては西洋史をおもな対象とし、近代化の歪み（排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の社会状況にも言及しますが、これらの問題の歴史的背景の考察や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。</p>	<p>I. 導入：外国史の課題 II. 教育実習に向けて ① 模擬授業 高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討 III. 過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用） ① 社会的マイナリティーの歴史 ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者 ② 歴史教育を考える 歴史教科書と歴史観の問題</p> <p>（状況によっては、IIとIIIを入れ替えるかもしれません。）</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価します。	<p>『詳説 世界史』（高校用世界史教科書B）山川出版社</p> <p>連絡先：（研究室）アンデレ館7階725室 （tel）0725-54-3131（内線）3725 （Email）ban@andrew.ac.jp 面談：在室中は、随時可能です。</p>			
[教科書]				
指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋史 (東アジア世界の歴史を中心に)	01	春学期集中	4単位	片倉 穰
〔講義概要・学習目標〕 日本の歴史を世界史のなかから見ようとする場合、まず、朝鮮・中国など東アジア世界の歴史と密接な関係にあったという史的事実の認識から始める必要がある。 本講義では、東洋（アジア）を構成する一地域である東アジア世界の成立とその展開を取り上げる。地理的には、日本・中国・朝鮮・ベトナムなどを考察の主対象とし、時期的には、東アジアが国際的な一体感を共有していた前近代（18世紀以前）を検討する。東アジアという地域が西アジアやヨーロッパなどの文明と交流し、その過程に生じた摩擦についても言及し、この地域世界が異なる文明を受容した歴史的意義をも考察したい。 「アジアは一つ」と言うことばもあるが、東洋（アジア）の一環としての東アジアの史的考察をととして、世界におけるアジア、東アジア、ひいては日本の史的立場を考える素材を提供できれば幸いである。	〔講義計画〕 はじめに：なぜ東アジアなのか ：東洋と西洋 〔I部〕東アジア世界の成立 (1) 東アジアにおける政治社会の成立 (2) 中国における世界観の形成と皇帝政治 (3) 東アジアの国際関係：「冊封関係」 〔II部〕東アジア世界の歴史の展開 (1) いわゆる唐宋変革期と東アジア (2) 東アジア諸民族の活動 (3) 東アジア史上の「元寇」を考える (4) 境界人間集団「倭寇」の登場 〔III部〕東アジア世界と西洋文明 (1) 東アジアと西洋文明の出会い (2) 東アジア諸国の「海禁」「軍縮」 (〔東洋的近代〕について) (3) 東アジアにおける近代の胎動 (4) アヘン戦争の衝撃と東アジア おわりに：この講義のまとめと反省			
〔成績評価の方法〕 出席状況と期末試験などにより評価する。	〔参考文献〕 随時、講義中に紹介・解説する。			
〔教科書〕 毎時間、プリントを配布して講義を進める。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋史	02	秋学期集中	4単位	原山 煌
〔講義概要・学習目標〕 この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界、そしてそれ以外のアジア諸地域を主な考察の対象とする。アジアの歴史は、「中華」と自認する漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」とよばれる）の二大要素の相剋によって展開されてきたという見方ができる。よく知られている北方騎馬遊牧民族、一匈奴や突厥、モンゴルなどは特に著名一の活動により、中国世界、そしてアジア全体、ひいては世界史的規模で実質が大きく変貌することがあった（モンゴル時代史とはまさにそのような時代である）。一方、忘れてはならないもうひとつの大きな潮流として、今や10億人をこえる信者をもつイスラム教圏がある。そうした異質の要素を含みこむアジアの歴史を通観し、再構成してみよう。こうした問題関心は、多民族複合国家として存在する現在の中華人民共和國をはじめ、アジア諸地域のありようを考えてみる場合にも大きなヒントにもなることだろう。	〔講義計画〕 1. この授業の目的と講義の進め方の説明 2. 以下、時代を追ってアジア諸地域の歴史を通観して行く			
〔成績評価の方法〕 授業への理解度と出席状況を確認するための小テストを毎回おこなって出席状況と理解状況を確認する。これと学期末の定期試験によって総合的に評価する。	〔参考文献〕 寺田隆信『物語 中国の歴史』中公新書 中央公論社。 松田寿男『アジアの歴史』岩波書店。			
〔教科書〕 宮崎市定『アジア史概説』中公文庫 中央公論社。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地理学概論 (旧 自然地理学)	01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標] 地理学は具体的な「地域」・抽象的な空間「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学・自然地理学の理論や方法論の基礎について、具体例をもとに学習する。 ただし、この授業は教職(教科に関する専門科目)である。また学校教育での授業の教材化に必要な、より具体的な地域事例は、別に「地誌」の授業で取り上げる。 毎時間、用語問題、地図・統計・グラフを読み解く問題、文章で答える問題からなる平常試験を実施する。定期試験の形式も平常試験の形式に同じとする。成績評価は厳しく実施する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは何か 2. 世界の生態学的視点と地域システム 3. 地球環境問題と公害問題 4. 世界の人口増加と食糧問題 5. 日本の人口配置とその影響 6. 日本における地域開発 7. 都市とスラム 8. 環境・福祉と財政 9. 多様化する余暇活動とその地理 10. ジェンダーの地理 11. 一体化する世界経済 12. 地域経済と世界経済との関係 13. 変化する貿易パターン 14. 人文主義地理学 場所や景観の意味づけについて 15. 現代における地理学の課題 			
<p>[成績評価の方法] 定期試験(持ち込み不可)と小テスト。得点が上位から席次300位以下の履修者には単位を与えない。中学・高校の教員として最小限必要な知識と文章構成力は単位習得に必要とされる。</p>	<p>[参考文献] 西川 治 『人文地理学入門』東大出版会</p>			
<p>[教科書] 使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	01 03	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標] 情報があふれている現代社会において、学校教育現場では何を世界地理の授業として教えるべきか。環境教育・人権教育・国際理解教育の基礎として、世界地誌の各テーマを取り上げ、社会科・地理歴史科の教材として開発し活用する方法について、検討する。 高校地理歴史科および中学校社会科の教員免許取得のための教科専門科目です。間違いのないように注意して履修してください。 教員採用試験の地理問題などを小テストとして毎時間実施する。大量の地名などを暗記することも必要となる。中学・高校の教員として成り立ちうる最小限の文章構成力が要求される。成績評価は厳しくする。</p>	<p>[講義計画] (後期) 1. 地理学と地誌との違い 2. 景観・等質地域・結節地域の諸概念 3. 地域学習の教材をどのように見出すか 4. ヨーロッパの統合 EUの形成とその課題 5. 旧西ドイツの外国人労働者問題 6. アメリカ合衆国 開拓の理想と現実 インナーシティ問題 7. ラテンアメリカ モノカルチャ経済の悩み 8. オーストラリア 白豪主義の克服 日本による資源開発 9. オセアニア 核実験に抗議する島々の暮らし 10. アフリカ 砂漠化と食糧問題 11. シベリア 開発とその課題 12. アジア NIES諸国の経済発展</p>			
<p>[成績評価の方法] 定期試験(持ち込み不可)と平常の小テスト。得点が上位から席次300位以下の履修者には単位を与えない。用語問題・地図を読む問題と文章で答える問題とする。</p>	<p>[参考文献] 中学・高校時で使用した「地図帳」(出版社を問わない)を持参していただければ望ましい。</p>			
<p>[教科書] 使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	02	春学期	2 単位	藤 森 勉
【講義概要・学習目標】 地誌学は一般地理学(系統地理学)とともに地理学の2大部門を構成するものである。地誌学は地域ごとの特性を明らかにし対象地域を正しく理解することにその目的である。 地誌は地誌学の成果を地域ごとに整理・解説したものであり、本学期では大スケールの対象地域として第2次大戦後わが国と緊密な関係を結ぶにいたったオーストラリアを取りあげる	【講義計画】 (1) 先住民アボリジニの生活と社会 (2) 植民地化の経緯とアボリジニとの関係 (3) ゴールドラッシュと中国人移民 (4) 独立の経緯と白豪主義 (5) 鉱工業の発達 (6) 戦後における日本との諸関係			
【成績評価の方法】 期末テストの結果 90% 出席率 10%	【参考文献】 授業中に紹介する。			
【教科書】 使用しない。プリントを多数教室で配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	04	秋学期	2 単位	藤 森 勉
【講義概要・学習目標】 地誌学は一般地理学(系統地理学)とともに地理学の2大部門を構成するものである。地誌学は地域ごとの特性を明らかにし対象地域を正しく理解することにその目的である。 地誌は地誌学の成果を地域ごとに整理・解説したものであり、本学期では小スケールの対象地域としてわが国のさまざまな地域を取りあげ形成課程や現状と問題点を解説し、ゆがみの地域課題を理解してもらう	【講義計画】 (1) 有明海の干拓地 (2) 瀬戸内海の塩業と本四架橋 (3) 中国山地のたたら製鉄 (4) 過疎の村(和歌山県北山村) (5) 砺波平野の散居集落 (6) 金属洋食器工業の町(新潟県燕市) (7) その他			
【成績評価の方法】 期末テストの結果 90% 出席率 10%	【参考文献】 授業中に紹介する。			
【教科書】 使用しない。プリントを教室で配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
哲学		通期	4単位	木下昌巳
<p>[講義概要・学習目標] 本学での倫理学の授業の中で、学生諸君に「哲学は必要か？」という問いをしたところ、少なからぬ人が「そのそも哲学というものが何を研究する学問なのか分からないので、答えようがない」という返答をした。哲学の対象分野が必ずしも明確ではないことは事実であり、そもそも「哲学とは何か？」という自体がすでに哲学的問題であると言える。だが、対象分野が明確ではないとしても、さまざまな問題に対する哲学的なアプローチというものがある存在すると考える。本講義では、古代ギリシャから現代に至るまでの数人の哲学者の思想を紹介しながら、哲学的な問題意識のあり方というものに触れてもらい、その上で現代に生きる我々とそれらの哲学的問題との関わりを考察することを旨とする。</p>	<p>[講義計画] 1, 古代ギリシャ 2, 近代 3, 現代</p> <p>という大きな枠組みで論じていく予定。 授業中の積極的な発言を期待する。</p>			
<p>[成績評価の方法] 学期末テスト 80点 授業中のエッセイ（前後期に各三回程度実施する予定） 20点</p>	<p>[参考文献] 授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書] なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倫理学		通 期	4 単位	木 下 昌 巳
<p>[講義概要・学習目標] 「生命倫理」をテーマとして講義をおこなう。 「生命倫理」とは、倫理学のなかでは比較的新しく生まれた一分野であり、安楽死、臓器移植、人口妊娠中絶、クローン人間の作成など、従来の価値観では扱いきれない医療行為の倫理的指針を探求することを目的として成立した学問である。医学の技術の進歩は、人間の死とは脳の死なのか、心臓の死なのか？自分の遺体についての決定権をもつのは自分なのか、家族なのか？クローン人間をつくることは許されるのか？などといった、これまではなかった新たな種類の倫理的な問いをわれわれに突き付けることになった。これらの問題に答えようとするとき、われわれは、これまで日常生活のなかで疑わずにいたさまざまな価値の意味をあらためて問うことになる。本講義では、これらの問題の複雑な論点を整理し、解決の方向性を探っていくことにする。</p>	<p>[講義計画] 前期は生命倫理固有の問題に焦点を絞り、インフォーム・コンセント、臓器移植、脳死、クローン人間といったテーマを個別に論じていく。後期では、前期の内容を前提としてその背後にある倫理学の根源的な問題を概観・検討する予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法] 学期末試験 80点 授業中に提出するエッセイ（3回程度実施する予定） 20点 以上の100点満点で評価する。</p>	<p>[参考文献] 加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療——バイオエシックスの練習問題』（PHP新書）</p>			
<p>[教科書] なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
職業指導		通 期	4 単位	松 原 勇
[講義概要・学習目標] 産業経済が激動する経営革新時代に働く職業人は、グローバル・スタンダード（国際標準）の見識とエネルギーに満ちた豊かな人間力の基礎を磨くことが大切である。現代の企業は「選択」・「集中」を念頭に入れ、経営を迅速化・効率化に対応できる職業人を強く要請している。その職業人には、大志を抱き、優れた職業倫理を身につけ、職務に情熱を傾け、自覚と責任ある使命感に満ち、自己の魅力ある知性と感性を磨き、持てる能力を最大限に発揮できるような知識・技術の習得が求められる。 本講では、その趣旨を踏まえ、産業経済に適応できる職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして職業能力の適性を伸ばさせ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。 併せて、就職活動の準備のための「期待される新職業人像」を網羅して、創造力・表現力等の方法論の実践指導も図る。	[講義計画] 1 生涯教育と職業指導 2 職業指導の必要性 3 就職活動への指針 4 就職試験の実践指導 5 期待される新職業人像 6 学生生活と社会生活の相違 7 働くことの意義 8 職業人の心得 9 業務の上手な進め方 10 ビジネス文書の書き方 11 電話の取り扱い方 12 職場の人間関係の重要性 13 創造力・表現力の実践指導 14 魅力ある職業人を目指して 15 職業人の人間力を磨く手法等			
[成績評価の方法] 主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、コミュニケーション能力の実践面、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。	[参考文献]			
[教科書] 松 原 勇（著）「経営革新時代の 新ビジネスマンの基礎知識」（ぎょうせい）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋美術史		春学期集中	4 単位	林 宏作
[講義概要・学習目標] 美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国美術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国芸術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。	[講義計画] 1. 芸術創造の基盤条件としての中国の自然と生活、社会 2. 先史時代の遺跡と出土した芸術品 3. 殷・周時代の文化と芸術 4. 戦国時代の混乱と芸術の衰退 5. 秦・漢時代、中華文明の形成と遊牧国家の成立が芸術に与えた影響 6. 南北朝時代の文化と芸術 7. 隋・唐・宋時代の文化と芸術、東アジア世界の形成と日本文化への影響 8. 元時代の書画 9. 明時代の文化と書画 10. 清時代、西洋列強の進出と伝統文化の対立			
[成績評価の方法] 出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業考古学		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>産業考古学とは、産業の歴史や技術の発展を、考古学的な視点から研究する学問である。具体的には、生産工具、生産設備、生産環境などの遺物を調査・分析し、その用途や製造方法を明らかにする。また、産業の発展に伴う社会や文化の変化についても研究する。本講義では、産業考古学の基礎知識を習得し、具体的な事例を通じてその意義や価値を理解することを目的とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>産業考古学の概論、生産工具の考古学、生産設備の考古学、生産環境の考古学、産業の発展と社会文化の変化、産業考古学の意義と価値、産業考古学の調査・分析手法、産業考古学の保存・修復手法、産業考古学の展示・教育手法、産業考古学の国際動向、産業考古学の今後の展望。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートの提出と試験の点数を総合的に評価する。期末試験は、講義内容に関する知識の理解と応用能力を測定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>産業記念物調査研究会「近畿の産業博物館」阿吽社</p>			
<p>[教科書]</p>				

「コンピュータ利用 I」クラス一覧

クラス	担当者	時間割コード	ページ	クラス	担当者	時間割コード	ページ	クラス	担当者	時間割コード	ページ
01	北條 仁志	71371	9 1	15	永田 淳次	61371	9 3	29	朴 修賢	31375	9 5
02	"	72371	9 1	16	"	61372	9 3	30	"	32375	9 5
03	岩田 賢造	41373	9 1	17	"	62371	9 3	31	"	32376	9 5
04	"	41374	9 2	18	"	62372	9 3	32	巖 圭介	32377	9 5
05	"	42372	9 1	19	初瀬 慎一	11373	9 4	33	水口 薫	21374	9 6
06	"	42373	9 2	20	"	11374	9 4	34	"	21375	9 6
07	田中 裕顕	13374	9 2	21	"	31372	9 4	35	"	22375	9 6
08	"	31371	9 2	22	"	31373	9 4	36	"	22376	9 6
09	"	14374	9 2	23	"	32373	9 4	37	"	23372	9 6
10	"	32372	9 2	24	"	32374	9 4	38	"	24373	9 6
11	田村 昶三	21372	9 3	25	"	33372	9 4	39	"	43373	9 6
12	"	21373	9 3	26	"	33373	9 4	40	"	44373	9 6
13	"	22373	9 3	27	"	12372	9 4				
14	"	22374	9 3	28	朴 修賢	31374	9 5				

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としています。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
5. この科目は、学則上「共通自由科目（2単位）」に位置づけられています。
6. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録（先着順ではない）が必要です。

対象者：02・03（E・SS・SW・B・LE・LI）生は（01～40）クラス対象

法学部生（02J・03J）は（03・04・05・06・11・12・13・14）クラス対象

定員：35名

予備登録日：在學生（02生） 3月22日（土）・24日（月）

新入生（03生） 4月5日（土）

予備登録時間：【平日】9:10～15:00（11:30～12:30昼休憩）

【土曜】9:10～13:00（該当土曜日のみ昼休憩なし）

場所：自由投函箱（教務課ロビーに設置）

クラス発表：在學生（02生） 3月28日（金）} 「聖アンデレ館下掲示板」および

新入生（03生） 4月9日（水）} 「授業情報ホームページ」

申込方法：①「コンピュータ利用 I 予備登録票」に必要事項を記入して提出してください。

②希望するクラスを3つ以内で記入してください。ただし、同一クラスを記入することはできません。また、既に予備登録を済ませた科目やクラス発表のあった科目と重ならないよう注意してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	01 02	8月集中 8月集中	2単位 2単位	北 條 仁 志
[講義概要・学習目標] 近年、コンピュータの発達に伴い、インターネットや電子メールによる情報伝達、ワープロによる文書作成や数値計算等、様々な目的に応じてコンピュータを利用する機会が増えている。 本講義では、コンピュータに触ったことの無い初心者を対象として、コンピュータの基本的な概念を学習する。それらを身近な道具として利用し、インターネット上の様々な情報を活用できるための知識を習得することを目標とする。	[講義計画] 以下の項目について講義・実習を行う。 1. コンピュータの基礎的概念 2. パソコンの操作方法 3. ワープロによる文書の作成 (MS Word) 4. インターネット (電子メール, WWW) の活用 5. 表計算の基本的操作 (MS Excel) 6. プレゼンテーション (Power Point)			
[成績評価の方法] 出席状況と提出課題により総合的に評価する。	[参考文献] 特に指定しない。			
[教科書] 桃山学院大学情報センター編 ユーザーズガイド				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	03 05	春 学 期 春 学 期	2単位 2単位	岩 田 賢 造
[講義概要・学習目標] インターネットの普及に伴いエレクトロニック・コマースやビジネスモデルなど新しい情報技術 (IT) を利用した事業やベンチャー企業が出現しています。 日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、政府は IT 戦略会議で2005年には「世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成」を目指す、e-japan計画を推進しています。授業では、コンピューターを利用する上で必要な基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピューターをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。 尚、この授業はパソコンを使った経験のない初心者を対象としますので、使用経験のある方はご遠慮ください。	[講義計画] 1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基本操作 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロソフト (Word) の基本操作 6) 表計算ソフト (Excel) の基本操作 7) データ分析とグラフ表現の方法 8) プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作 9) その他の情報活用技法と事例紹介			
[成績評価の方法] 出席を重視します。出席日数60%以上と数回の課題提出による総合評価を行ないます。キーボードの入力練習などの予習・復習は時間外に行なっていただきます。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。			
[教科書] 必要に応じて指示致します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	04 06	秋学期 秋学期	2単位 2単位	岩田 賢造
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターネットの普及に伴いエレクトロニック・コマースやビジネスモデルなど新しい情報技術(I T)を利用した事業やベンチャー企業が出現しています。</p> <p>日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、政府はI T戦略会議で2005年には「世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成」を目指す、e-japan計画を推進しています。授業では、コンピューターを利用する上で必要な基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピューターをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。</p> <p>尚、この授業はパソコンを使った経験のない初心者を対象としますので、使用経験のある方はご遠慮ください。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基本操作 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロソフト (Word) の基本操作 6) 表計算ソフト (Excel) の基本操作 7) データ分析とグラフ表現の方法</p> <p>8) プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作 9) その他の情報活用技法と事例紹介</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視します。出席日数60%以上と数回の課題提出による総合評価を行ないます。キーボードの入力練習などの予習・復習は時間外に行なっていただきます。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学 計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>必要に応じて指示致します。</p> <p>・教材は、主にプリントにて配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	07 08 09 10	春学期 秋学期 春学期 秋学期	2単位 2単位 2単位 2単位	田 中 裕 顕
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>コンピュータは、紙と筆記用具と机がいっしょになったような役割を担える機械であり、人間が扱う気さえあれば何でもやらせてみる事ができる。コンピュータリテラシーは、コンピュータを扱う能力であり、昔で言えば「読み書きそろばん」ができることに相当する。本実習ではコンピュータを基本操作から学び、日常生活でコンピュータを使っていけるような知識と技術の習得を目指す。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1.Windows2000 を使おう ファイルとフォルダの概念を学び、ファイルの管理方法を習得する。キーボードやマウスを使ってパソコンを操作するための基礎知識を学習する。</p> <p>2.コミュニケーションしよう コンピュータ社会で守るべき常識的なエチケットに触れた後、メールを送受信する方法を習得する。次に、コンピュータがくもの巣状につながっているインターネットから、各種の情報を獲得する方法を学ぶ。ウェブサイトを閲覧するためのソフトを起動して、知りたい情報を検索するためにサーチエンジンを使ってみる。</p> <p>3. 文書や絵で表現しよう ビジネス文書を作成するための日本語ワープロソフトについて実習し、レポートや論文の作成に役立つ基本的な操作方法を学習する。</p> <p>4. コンピュータで計算しよう 表計算ソフトにデータを入力して解析し、プレゼンテーション用のグラフを作成する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>単位取得には、最低でも8回以上の出席が必要とする。出席点とレポート点の合計で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ユーザーズガイド(初回の講義で配布します.) バージニア・シャー 著、ネチケットネットワークのエチケット / 松本功訳 / 菊地敦子 協力、ひつじ書房 / ISBN4-938669-67-6 / 定価 1545 円 超図解 Word2002 for Windows 基礎編 エクスメディア 超図解 Excel2002 for Windows 基礎編 エクスメディア</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	1 1	春 学 期	2 単 位	田 村 昶 三
	1 2	秋 学 期	2 単 位	
	1 3	春 学 期	2 単 位	
	1 4	秋 学 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>インターネットやネットワークは世間の常識になった。しかし、習熟するには、それなりの時間とエネルギーがかかります。それを効率的に勉強するにはツボを押さえた学習方法があります。大学生活に必要な情報処理の入門です。</p> <p>パソコン基礎を習得を目的とする「基礎のきそ」を勉強します。パソコンを道具として使いきるための初心者向けの講義です。情報処理は大まかに(1)情報収集-(2)情報整理-(3)情報伝達-(4)情報保管・蓄積-(5)情報検索のフェーズに分かれます。この中で(2)-(4)までをコミュニケーションの手段としてのパソコンを実習しながら勉強をします。</p> <p>パソコン基本操作から始めますが、パソコン・リタラシー習得を授業の中心にします。ビジネスで文書やドキュメントを中心に日本商工会議所パソコン検定試験(ワープロ・表計算)合格水準を目標に技能習得します。</p>	<p>1. Windowsの起動と終了。書式設定と印刷の仕方。</p> <p>2. パソコンの基本操作(キータッチとマウス) *キータッチがスタートです。</p> <p>3. ワープロソフト(文字入力、文書作成編集、美しい文書表現) *ワープロ入力スピードアップ。講義が終わるときに「手書きより速く入力できるようになる」を目標。</p> <p>4. EXCEL(データとグラフ)(データ入力、表の作り方、グラフ作成) *表計算(EXCEL)の基本的な使い方が分かり基礎的な使い方はこなせる。「統合」の概念を理解する。、「関数」が使えるようになる。</p> <p>5. POWER POINTの使い方 *論理の進めかたと表現の習得</p> <p>6. インターネットの利用(WWW、電子メール、メールマガジン、)</p> <p>7. 正しい電子メールの送り方を習得する。実際にメール交換をする。</p> <p>8. 情報保管蓄積、情報検索、データベースの理解する。 *インターネットによる情報収集の限界と情報検索の重要性を理解する。</p> <p>9. 情報技術(IT)の活用するには、ないをすべからず。</p> <p>10. ビジネス文書の基本をしる。初歩的な作り方を実践する。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席が3分の2以上。毎週入力テスト(10分間)と理解度テスト提出。電子メール送信。学期末試験により総合的に評価する。</p>	<p>桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』</p> <p>この授業は完全初心者を対象としています。経験者が入ると本来受講すべき初心者が受講できなくなるの、経験者はなるべく他の授業を受けるようにしてください。</p>			
[教科書]				
<p>教材は、毎週プリントで配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	1 5	春 学 期	2 単 位	永 田 淳 次
	1 6	秋 学 期	2 単 位	
	1 7	春 学 期	2 単 位	
	1 8	秋 学 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>コンピュータはその名前が示すとおり、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特長を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。</p> <p>本講義では、初心者がコンピュータやコンピュータネットワークの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。</p> <p>また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。</p>	<p>1. コンピュータの概要と基本的な操作</p> <p>2. インターネットの基礎知識</p> <p>3. メールによるコミュニケーション</p> <p>4. プレゼンテーション</p> <p>5. 表計算</p> <p>6. 日本語文書の作成</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>提出された課題レポートの総合評価</p>	<p>桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』</p>			
[教科書]				
<p>必要に応じてプリントを配布</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	19 21 23 25	春 学 期 春 学 期 春 学 期 春 学 期	2 単 位 2 単 位 2 単 位 2 単 位	初 瀬 慎 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。</p> <p>授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータの概要 2. コンピュータの基本操作 3. インターネットの活用とセキュリティ 4. 電子メールとネチケット 5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の活用 6. その他の情報活用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	20 22 24 26 27	秋 学 期 秋 学 期 秋 学 期 秋 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位 2 単 位 2 単 位 2 単 位	初 瀬 慎 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。</p> <p>授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータの概要 2. コンピュータの基本操作 3. インターネットの活用とセキュリティ 4. 電子メールとネチケット 5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の活用 6. その他の情報活用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	28 29 30 31	春 学 期 秋 学 期 春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位 2 単 位 2 単 位	パク スーヒョン 朴 修 賢
【講義概要・学習目標】 現代社会において基礎的な機能として要求されているコンピュータの基礎知識や操作方法の習得を学習目標とする。 1. OS やキーボード操作などとパソコンに関する基礎的な知識を身につける。 2. 文書作成及び編集(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の使い方を練習し、簡単な報告書の作成を目指す。 3. 電子メールやインターネットの使用法を習得する。		【講義計画】 1. パソコンの基礎知識 2. Word の操作：文書の作成・編集 3. Excel の操作：効率のよい表作成、数式、関数、グラフ機能など 4. PowerPoint の操作：プレゼンテーション機能 5. インターネット 6. 電子メール		
【成績評価の方法】 出席、宿題による総合評価		【参考文献】 特に指定しないが、市販の参考書を適切に利用する。		
【教科書】 開講時に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	32	秋学期	2 単 位	巖 圭 介
【講義概要・学習目標】 コンピュータを使わずに仕事をするのがありえない時代になった。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワープロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じである。 一方で、年々ますます高性能になるコンピュータは、様々なことを可能にする魔法の箱でもある。インターネットも無限の可能性を秘めて日々成長している。このようなコンピュータの世界を知らずにいることは、人生の損失以外の何ものでもない。 この授業では、 <u>コンピュータにほとんど触ったことのない人</u> を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。ワープロ、表計算などビジネスで必要とされる基礎技術に加え、プレゼンテーション、ホームページの作成など、コンピュータの楽しさも味わってもらえる授業にしたい。 コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要もある。		【講義計画】 下記の項目について実習を行う。 ・コンピュータのさわり方 ・キーボード入力 ・電子メール (Outlook Express) ・インターネット (Internet Explorer) ・ワードプロセッサ (MS Word) ・表計算 (MS Excel) ・プレゼンテーション (MS PowerPoint) ・ホームページ入門 ただし、進度によってはプレゼンテーションやホームページ入門は割愛することがあります。		
【成績評価の方法】 出席状況と提出物、期末の実技テストによる。欠席4回で除籍する。遅刻にも厳格に対処する。		【注意】 この授業は初心者を対象としています。経験者が受講しても退屈なだけですし、経験者が入ることで、本来受講すべき初心者が受講できない事態も生じます。ある程度心得のある人は、なるべく他の授業を受けるようにして下さい。		
【教科書】 桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」 (最初の授業で支給します)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	33・35	春学期・春学期	2単位・2単位	水口 薫
	37・38	春学期・春学期	2単位・2単位	
	39・40	春学期・春学期	2単位・2単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>近年、特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会、情報化社会において、その発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作するだけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p> <p>講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりしたペースでの反復学習を行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要 2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネットソフト） 6. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付） 7. コンピュータの可能性について 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
講義時の課題、レポート、出席により総合評価				
[教科書]				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布				

共通自由
02～

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	34	秋学期	2単位	水口 薫
	36	秋学期	2単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>近年、特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会、情報化社会において、その発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作するだけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p> <p>講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりしたペースでの反復学習を行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要 2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネットソフト） 6. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付） 7. コンピュータの可能性について 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
講義時の課題、レポート、出席により総合評価				
[教科書]				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布				

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ
01	木下 昌巳	54371	9 8	05	滝澤 武人	22377	1 0 0	09	藤井 肇	41375	1 0 2
02	小柳 伸顕	34372	9 8	06	竹中 暉雄	13375	1 0 0	10	三浦 俊介	13376	1 0 2
03	佐藤 慶子	12373	9 9	07	生瀬 克己	33374	1 0 1	11	柳父 章	32378	1 0 3
04	杉岡 信行	44374	9 9	08	深澤 徹	53372	1 0 1				

共通自由
02～

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
4. この科目は、学則上「共通自由科目（4単位）」に位置づけられています。（02・03生）
5. 履修登録にあたっては、以下のとおり事前に予備登録（先着順ではない）が必要です。

対 象 者：02・03（E・SS・SW・B・LE・LI）生は（01～11）クラス対象

法学部生（02J・03J）は（01・03・07・11）クラス対象

定 員：30名

予備登録日：在學生（02生） 3月22日（土）・24日（月）

新入生（03生） 4月5日（土）

予備登録時間：【平日】 9:10～15:00（11:30～12:30昼休憩）

【土曜】 9:10～13:00（該当土曜日のみ昼休憩なし）

場 所：自由投函箱（教務課ロビーに設置）

クラス発表：在學生（02生） 3月28日（金） } 「聖アンデレ館下掲示板」および

新入生（03生） 4月9日（水） } 「授業情報ホームページ」

申 込 方 法：①「論述作文予備登録票」（新年度書類在中）に必要事項を記入し提出してください。

- ②希望するクラスを3つ以内で記入してください。ただし、同一クラスを記入することはできません。また、配布した「個人別指定クラス一覧」の曜日・時間と重ならないようにクラスを選定してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文（旧 論述作文（2））	01	通 期	4 単位	木下昌巳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>文章の大きな目的は、自分の考えていることを文章によって自分以外の人に伝えることである、せつかくよい考えをもっている、ただ漫然と書いてあつたら、それはなかなか読み手には伝わらないだろう。たとえば大学の授業の課題として提出するレポートを書くときに、どれほど綿密に資料を調べたとしても、どれほど独創的な考えを持っていても、読み手に理解されるような仕方で適切に整理され論理的に書かれていなければ、それはけつしてよいレポートにはなりえない。文章にはしかるべき書き方がある。この授業では、文章を実際に書くことを中心として、広い意味で文章を書く技術を身につけてもらうことを目指す。それに加えて、図書館の使い方、資料の集め方、ワープロソフトの操作法の練習なども授業のなかに取り入れる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>ひと月に1本のペースを目標として、年間に6本程度書いてもらう予定。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>提出された作文による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文（旧 論述作文（2））	02	通 期	4 単位	小 柳 伸 顕
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>書くことは、一つの意志表示です。自分の意思を正確に相手に伝えることは重要なことです。そのためには、やはり書く技術が必要で、それは書く訓練を必要とします。また、何を伝えたいかという問題意識も重要になってきます。一年間を通じて、書くことにより問題意識を整理する道と身につけることを一つの目標とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>まずは、他人の文章をまとめてみることから始めます。次にテーマをもうけ、それに対する自分の意見を書いてみます。テーマは、主として「人権」問題に焦点を絞ってみます。休暇（夏・冬）には、一冊本を読み（逆城自由）まとめてみます。また、お互にどのような意見をもちたいかを知るために、書いたものを発表してもらいます。文章も短いものから長いものへと練習します。</p> <p>各回提出の論述作文は、添削して返却します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回出席し論述作文を提出すること。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧 論述作文 (2))	03	通 期	4 単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標] 書く力の低下が言われて久しいが、話し、聞き、読む能力を土台として、初めて確立されるものであり、意思伝達の訓練が、人間関係を築く上で、いかに重要であるかを、再認識してもらえよう。	[講義計画] <前期> (1) 原稿用紙の使い方。 (2) 自分の思い、考えを、より正確に相手に伝えるための表現法。 <後期> (1) 敬語の使い方。 (2) 礼儀正しく、心のこもった、手紙の書き方、電話の掛け方。			
[成績評価の方法] (1) 出席 (最重視) (4) 提出物 (2) 前・後期末試験 (5) 発表 (3) 夏期休暇中の課題 (6) 授業中の態度	[参考文献] 必要に応じて紹介する。			
[教科書] 市販のテキストは使用せず、講義中の板書と解説に、配付したプリントを併せて、一生、役に立つノート作りを目指す。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文 (2))	04	通 期	4 単位	杉 岡 信 行
[講義概要・学習目標] 授業では、研究レポートや小論文が作成できるようになることを目標とする。原稿用紙の使用法から始めて、レポート作成に必要な文章表現やさまざまな知識を年間を通して学ぶ。その中には、本学図書館での文献検索の実習も含まれている。コンピュータによる文献検索に慣れていただきたい。 また授業では、計算機センターのパソコンにより、ワープロ原稿の入力を行う。データや文書が保存されているフロッピーディスクは必ず携帯してください。センターでの授業は月1回行う予定。	[講義計画] (前期) 初めに計算機センターでワープロガイダンスを受ける。授業中には400字×2枚程度のレポートを書くようにする。夏期休暇中のレポートは、自由課題として400字×5枚程度を宿題とする。 (後期) いくつかのテーマを課題として、長いレポートが書けるようにする。また、夏期レポートを発表してもらおう。他者の発表を聴きとり、質問したり意見を述べたりできるようになる。そして、その発表内容を最終レポート(400字×10枚程度)に仕上げる。			
[成績評価の方法] 出席数、レポート作品数などから総合的に評価する。	[参考文献] 野矢茂樹著『論理トレーニング』産業図書			
[教科書] 木下是雄著『レポートの組み立て方』 (筑摩書房/ちくま学芸文庫)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文（旧 論述作文（2））	05	通 期	4単位	滝 澤 武 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>原稿用紙の書き方からはじめ、とにかくさまざまな文章を心をこめて丁寧に書くということを最低限の目標とします。毎週800字の作文を書いてもらい、短評を付けて返却します。「書く」という作業を通して、自分自身の「生き方」について自覚してもらいたいと思います。今年度は文章を「読む」ということを重視したいと思います。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎週の作文テーマは、誰でもが書きやすいようなもの、そしてどこかで自分自身の「生き方」と関わるようなものを指示します。たとえば、「おいたち」「思い出」「初恋」「旅」「スポーツ」「音楽」「映画」「クリスマス」「生と死」「セックス」「俳句」「手紙」などです。 夏休みと冬休みには、4000～5000字の文章を書いてもらう予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>野口悠紀雄『「超」文章法』（中公新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文（旧 論述作文（2））	06	通 期	4単位	竹 中 暉 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>信号音を使って相互にコミュニケーションをとる能力は人間以外の動物にも存在するが、しかし文章を書くということは、人間のみの特長な能力であり特権でもある。その文章能力が、音声文化・映像文化の発達とともに次第に低下しつつある。またパソコンの普及に伴って、ペンや鉛筆を使って文字を書くこと自体も苦痛になりつつあるし、漢字の記憶があやふやになってしまうことは、私自身もよく体験することである。しかし文章を文法的に正しく、かつ論理的に、そして魅力的に作成するということは、単に聞いたり見たりする作業とは違って、非常に能動的な「考える」作業であり、頭脳をフル回転させなければならぬ。ところがこのような能力は、日ごろ、ペンをもって文章を書くということから離れていると、急速に衰えていくのである。</p> <p>この授業では、いろいろな悪文の文章例によって、文章を書くときに注意すべきちょっとしたことがらを意識することから始め、文を書くことが苦痛でなくなり、むしろ楽しみとなることを目標とする。しかしそれだけではなく、他人の文章や話しを読んだり聞いたりしてその要点をまとめたり、年度末には各自が設定したテーマに基づいて集めた資料を引用した、ある程度まとまった論文を完成することにする。</p> <p>現代の大学生にとって、不可欠有意義な授業（講義ではない）にしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（現代社会における論述作文の必要性） 2 各種教材を使った悪文例の検討 3 指示テーマによる作品づくり 4 自由テーマによる作品づくり 5 受講生による講義の要約（資料は用意します） 6 各自テーマの設定および資料収集 7 ワープロ（パソコン）による文章作成 8 修了論文の作成および論文集の編集制作 <p>以上のような内容をいろいろ組み合わせながら授業を進めます。 毎回の授業終了後、課題の作品を提出していただき、次回に添削を加えて返却します。欠席・遅刻をすると、作品の提出に支障が生じますので、注意して下さい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>もちろん各自の作品および出欠。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。授業中に教材プリントを配布。 国語辞典は必携</p>				